

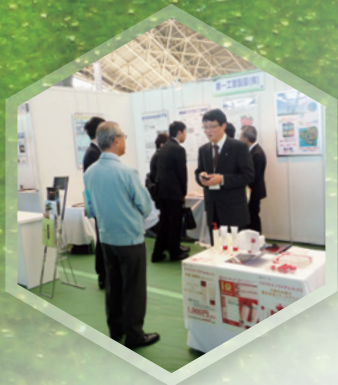


環境・社会活動報告書

Environmental and Social Report

2014

やさしさのテクノロジーで地球環境を未来へ伝える。
Technologies to pass our global environment down to future generations.



私たちの“こたえる、化学”

地球環境を
健やかに保つために

暮らしの
安全・安心のために

社会の便利と
豊かさのために

機能化学品事業部
樹脂材料事業部
電子材料事業部

▶ 界面活性剤事業

当社の原点をなす界面活性剤は、ゴム・プラスチックはもとより、色材、機械・金属、化粧品・生活関連産業、紙・パルプ、繊維、農業・農業資材、土木、エネルギーなど、さまざまな産業分野で貢献しています。

▶ アメニティ材料事業

ショ糖脂肪酸エステル、カルボキシメチルセルロースナトリウム、ポリビニルピロリドンなど、生活環境において快適性を求める材料や周辺応用技術を提供しています。食品、医薬、化粧品、水産・畜産など私たちの生活を取り巻く分野で幅広く使用されています。

▶ ウレタン材料事業

ウレタン樹脂は、さまざまな反応プロセス、加工技術を利用して作られ、ウレタンフォーム、エラストマー、塗料、接着剤、人工皮革、土木・建築材料、電気絶縁材料などの工業用素材として使用されています。またウレタン用原料として、製品を提供しています。

▶ 機能材料事業

合成樹脂は、家電や住宅など生活必需品に使用されています。この合成樹脂の高機能化や付加価値の向上、環境改善に役立つ製品として、ラドキュア樹脂、ポリウレタン水分散体、難燃剤、樹脂添加剤などを提供しています。

▶ 電子デバイス材料事業

コンピューターや携帯電話の普及拡大に象徴されるように、IT関連分野の技術革新は日進月歩の勢いで進展し続けています。当社固有の技術を生かして、導電性ペースト、セラミックス材料、イオン液体、リチウム電池などの開発を行い、電子デバイス分野の技術革新をサポートしています。

CONTENTS

トップメッセージ 3

会社紹介

会社概要 5
中期経営計画「チェンジ100計画」 6
暮らしの中で役立つ製品 7
環境に配慮した製品・技術開発 9
製品ピックアップ 10

環境・社会活動推進のために

CSR推進のために／コーポレートガバナンス 11
コンプライアンス／内部統制／リスク管理 12

環境・安全(RC)活動報告

環境・安全に関する基本理念・基本方針・行動指針 13
推進体制／マネジメントシステム 14
活動目標と実績 15
環境会計 16
地球温暖化防止(省エネルギー) 17
化学物質排出削減の取り組み 18
化学物質管理 19
廃棄物削減の取り組み 20
労働安全の取り組み 21
保安防災の取り組み 22

社会活動報告

情報発信ツール 23
社会・地域との関わり 24
お客様・取引先との関わり 26
株主・投資家との関わり 28
従業員との関わり 29

サイトレポート

四日市事業所／大瀧事業所 33/34
滋賀事業所／四日市合成株式会社 35/36
京都エレックス株式会社／第一セラモ株式会社／エレクセル株式会社 37
P.T.DAIICHI KIMIA RAYA／晋一化工股份有限公司／双一(天津)新能源有限公司 38

Webに掲載

当社の事業と環境・社会活動の歩み
2013年度PRTR届出量

環境・社会活動報告書2014 編集方針

第一工業製薬は、2003年から毎年「環境安全報告書」を発行し、レスポンシブル・ケア活動について報告を行ってきました。2008年からは、環境・安全・健康への取り組みに社会活動の取り組みを充実させた内容とした「環境・社会活動報告書」に変更し、社会との関わりについて詳しく報告しています。

本報告書は第一工業製薬の環境・社会活動の取り組みをステークホルダーのみなさまにご説明し、コミュニケーションを促進することを目指しています。できるだけわかりやすく、誠実に開示することを心がけて、編集しています。

また、2010年より英語版を当社ホームページに掲載しています。

第一工業製薬の環境・社会活動報告書概要

◎報告書対象組織

第一工業製薬

本社、研究所、東京本社、大阪支社、名古屋支店
九州支店、四日市事業所、大瀧事業所、滋賀事業所

国内関係会社(※第一工業製薬の同一敷地内)

四日市合成株式会社

ゲンブ株式会社*

第一建工株式会社*

第一グリーンケミカル株式会社*

第一セラモ株式会社*

京都エレックス株式会社*

エレクセル株式会社

株式会社すざく路*

本文中のパフォーマンスに関する記述では、「第一工業製薬」と「第一工業製薬グループ」を以下の基準で書き分けています。

第一工業製薬: 第一工業製薬と同一敷地内国内関係会社

第一工業製薬グループ: 第一工業製薬と全ての国内関係会社

◎報告書対象期間

原則として2013年度(2013年4月1日～2014年3月31日)の活動およびデータを記載しています。但し、労働災害強度率、労働災害度数率のデータは、2013年1月～12月のものです。

◎参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン2012年版」

環境省「環境会計ガイドライン2005年版」

(社)日本化学工業協会「化学企業のための環境会計ガイドライン(2003年11月)」

“こたえる、化学”を実践し、事業を通じて、 持続可能な社会の実現に向けて貢献します。

「工業用薬剤のトップ企業として時代を先取りする」
顧客満足を実現し、存在感の高い企業を目指します。



2013年度のがわが国経済は、円安・株高を背景に輸出や生産に加え設備投資にも持ち直しの動きがみられ、景気は着実に回復してきております。しかし、新興国など海外経済の先行きには不透明感があります。化学業界におきましては、エネルギー価格の上昇や円安による基礎原料ナフサ価格の高騰が収益を大きく圧迫しており、依然として厳しい状況が続いています。

このような状況のもと、当社グループは、この厳しい事業環境を乗り切るため、コア製品事業の拡販に努めますとともに、将来の成長分野である「環境」、「エネルギー」、「電子材料」、「生活資材」などの分野を中心に新規市場の開拓や新素材の開発の推進、原材料の安定的な確保や適正な採算確保、新コスト削減計画による総経費の削減活動などに取り組んでまいりました。

『チェンジ100計画』ステージII さらに前へ。行動こそが、明日を拓く。

中期経営計画『チェンジ100計画』ステージIIでは、“「工業用薬剤のトップ企業として時代を先取り」し、社は「産業を通じて、国家・社会に貢献する」を実現すること。プロダクト・イノベーションを担い、グローバル時代を生き抜くこと。世界の潮流を読み取り、存続と成長の道を歩むこと。を経営ビジョンに掲げています。本計画は、2025年の一工像に向かう歩みの一里塚として位置づけ、長期的視野に基づいた施策を打ち出しています。

2013年度は四日市拠点再編計画の実行に着手し始動いたしました。グローバル化が進み企業の存続と成長が問われる今日、保有する基礎技術の応用、また新規事業のための設備投資を行うことが必要と判断しました。

四日市地区の再編においては、当社における新規事業や新素材開発などの、統合的な開発機能も包含していき、未来へ向けた中枢を担う“マザー工場”と位置付けています。関係会社を含めた生産拠点の再編として、まさに不退転の思いで実行してまいります。

経営方針として掲げた「事業周辺領域の拡大」の実践課題は、短期間で拡大基調にのせるため、事業を徹底的に見直して、

その周辺領域を広げていくことが肝要となります。既存の製品自体の周辺を新しい視点で見つめること、「お客様目線」を鍛え直して現状の市場を大きく見つめること、保有する周辺技術に付加価値を高めることで拡大への方法を考えています。

「新規事業の創生」では、当社が保有するセルロース応用技術を活用したセルロースシングルナノファイバーの事業化を決定し、実証設備を着工しました。また、「海外展開の充実と管理の強化」では、国内市場で培ってきた品質やお客様での課題を解決する当社の独自技術を活かすべく、東南アジアを中心とする市場調査を行うシンガポール駐在員事務所を設立しました。

中期経営計画ステージⅡは、2025年の一工像への工程を見据えた眺望は壮大ですが、単なる“思いや夢”だけではなりません。2014年度が最終年度となりますが、実践のためのより明確な達成目標を設定し、その一つひとつを着実にクリアしていく必要があります。この一年、社員一人ひとりが「実行したか」「何をどのようにして実行したか」ということを、自らの胸の内に強く問いかけながら、ともに前進していきたいと考えています。

企業の社会的責任に根ざした推進

社会から信頼を得られる経営基盤の確立を目指し、企業の社会的責任(CSR)に根ざした企業活動を行うため、「コンプライアンス経営の充実」を経営方針として掲げ、最重要課題の一つとして位置付け取り組んでおります。当社は、2004年に「企業倫理憲章」を制定し、一人ひとりが全ての法令、国際ルールおよびその精神を遵守し、事業活動を行う各国および地域の文化・慣習を尊重し、社会的良識をもって行動することを宣言しています。

2013年度は、コーポレートガバナンスの一層の充実をはかるために、執行主体の立場から離れた代表取締役会長を選定して執行の管理監督を強化することを企図しましたが、「経営と執行の分離」をさらに進め、取締役と執行役員の役割課題をより明確にいたしました。

「コンプライアンス統制委員会」「リスクマネジメント統制委員会」「ITシステム統制委員会」「財務報告統制委員会」などの統制委員会活動を通して社内諸規程を見直し内部統制システムの整備に努めるとともに、CSRの従業員への浸透に注力していきます。

全従業員が社会の一員として、公平で健全な事業活動を行い、ステークホルダーのみならず信頼され存在感の高い企業であり続けるため、透明でかつ健全な経営を行っていきます。

レスポンシブル・ケア(RC)活動に取り組み、化学メーカーとしての責任を果たす。

当社グループは、化学製品を取り扱う企業としてRC活動をマネジメントの基盤に据え活動を推進することで、継続して「環境・安全・健康」を確保し、社会との信頼関係の構築、持続可能な社会づくりを目指しています。

環境保全では中期環境目標を設定して温室効果ガス、廃棄物の排出削減に継続して取り組んでいます。2013年度は、環境廃水の嫌気処理で副生するメタンガス(再生エネルギー)を利用した発電設備設置および改正水質汚濁防止法の設定備化対応に取り組みました。また、保安防災は化学メーカーにとって最重要課題ですが、大きな事故を決して発生させないために、日本化学工業協会が作成した「保安事故防止ガイドライン」を活用した製造現場の見直しを実施しました。

2013年度の活動をまとめた「環境・社会活動報告書2014」をご高覧いただき、当社へのご理解を深めていただくとともに、みなさまの率直なご意見とご感想をお聞かせいただければ幸いです。

2014年6月

代表取締役
社長執行役員

大柳雅利



環境・社会活動に取り組む

当社は創業以来、環境・社会活動に積極的に取り組んできました。
外部団体からも表彰を受け、高い評価を得ています。

会社概要

概要

社名 第一工業製薬株式会社
 本社所在地 京都市南区吉祥院大河原町5
 創業 1909年4月
 創立 1918年8月
 代表者 代表取締役社長執行役員
 大柳 雅利
 資本金 71億4,170万円*
 従業員 969名(連結)*
 514名(個別)*
 (*2014年3月末現在)

国内の事業所

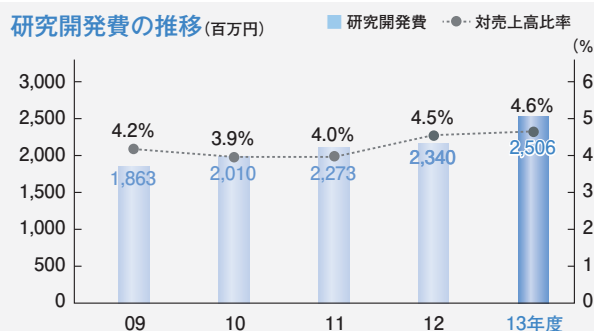
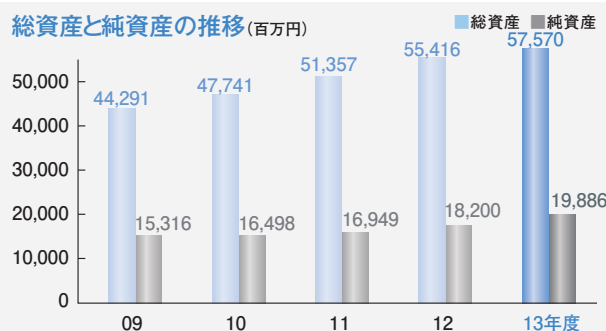
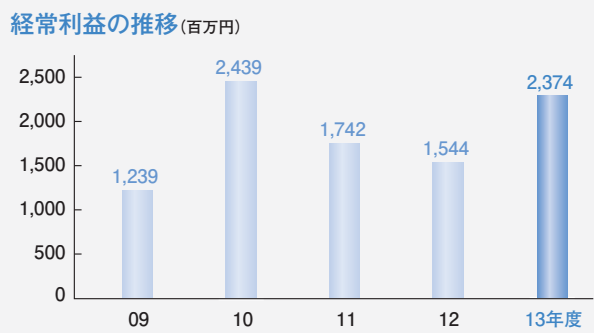
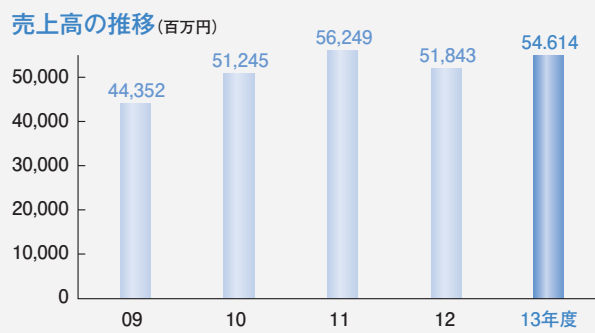
第一工業製薬株式会社

- 本社・研究所(京都事業所)
- 本店
- 東京本社
- 大阪支社
- 名古屋支店
- 九州支店
- 四日市事業所
- 大湊事業所
- 滋賀事業所

関係会社

- 国内 9社
- 海外 8社
- 計 17社

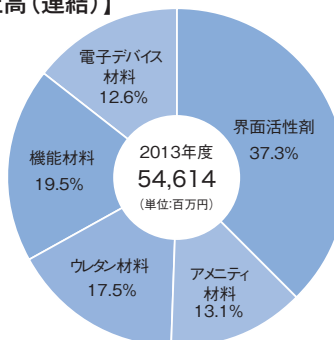
経営指標



事業区分と主要製品

事業区分	主要製品
界面活性剤	非イオン界面活性剤、アニオン界面活性剤 カチオン界面活性剤、両性界面活性剤
アメニティ材料	シヨ糖脂肪酸エステル セルロース系高分子材料 ビニル系高分子材料 アクリル系高分子材料
ウレタン材料	ポリエーテルポリオール ウレタンプレポリマー、ウレタンシステム
機能材料	光硬化樹脂用材料、水系ウレタン樹脂 難燃剤、アミド系滑剤
電子デバイス材料	電子部品用導電性ペースト 射出成形用ペレット 機能性無機材料

【事業区分別売上高(連結)】



化学の時代を先取りする

創業百周年から始まった中期経営計画『チェンジ100計画』。
企業体質の転換をはかり、さらに事業内容の質を維持して拡大を進めます。

中期経営計画『チェンジ100計画』

ステージⅡ—収益を伴う拡大— 2012年4月～2015年3月

▶ 経営ビジョン

『工業用薬剤のトップ企業として時代を先取り』し、社是『産業を通じて、国家・社会に貢献する』を実現します。
プロダクト・イノベーションを担い、グローバル時代を生き抜きます。
世界の潮流を読み取り、『品質第一、原価削減、研究努力』の社訓に沿い、存続と成長の道を歩みます。
先進国という成熟社会にあって地球環境の浄化維持、再生可能あるいは自然エネルギーへの転換分野に照準をあてます。
新興国という途上社会を見つめ中核である中国、インド、アセアン諸国に近い地理的条件に商機を求めます。
当社の持つ開発力と技術のソリューションを基に、“こたえる、化学”、京都から世界へ未来へ向かう一工像を実現します。

▶ 経営方針

ステージIで確かにした事業内容の質を維持して拡大を進めます。

(1) 事業周辺領域の拡大

「既存の製品、技術、顧客」の周辺領域への横展開と深掘りによって売上増加をはかります。

(2) 国内生産拠点の充実と新生

新しい生産拠点の確保と充実に努め、拡大と成長の土台を築きます。

(3) 新規事業の創生加速

将来の事業ポートフォリオのために、新規事業創生と設備投資を行います。

(4) コスト削減の追求

徹底した生産性の向上と新コスト削減の活動を推進します。

(5) マネジメント力の向上と人材育成

DKPM活動(DKS Productive Maintenance)の開始とグローバル人材の育成、内外のマネジメント力の強化に注力します。

(6) 海外展開の充実と管理の強化

中国、アジア地域の開発と管理を強化し、新展開の検討に着手します。

▶ 数値目標

	2013年度実績	2014年度目標
連結売上高	546億円	600億円以上
連結営業利益率	4.5%	5%以上
1人当たり売上高	5,636万円	6,200万円
売上高原価比率	78.5%	77.8%
売上高販管費比率	16.9%	16.9%
棚卸資産回転数	1.7ヵ月	1.6ヵ月

収益を伴う拡大



会社の行程に「5W1Hプラス1」の視点を持って臨みます。Why(経営ビジョン)、What(経営方針)、そしてWhen(期間指標)、Where(各部署)、Who(担当者)が、How(どのように)、How Much(いくら)を遂行し、目標の実現に努めます。

『チェンジ100計画』の概要は、当社ホームページ(<http://www.dks-web.co.jp>)に掲載しています。



さまざまな分野に活かされて

当社の製品は、私たちの暮らしの中でさまざまな製品の素材や部材に活用されています。その一例を社会・生活環境の場面から紹介します。

暮らしの中で役立つ製品

1 界面活性剤事業

2 アメニティ材料事業

シリコンウエハ用洗浄剤
● DKビークリア®CW

太陽電池用導電性ペースト
● DD-1200C

断熱材用硬質ウレタンフォーム
● DKポリオール

ベッド、クッション(軟質、半硬質ウレタンフォーム)
● ハイフレックス®
● DKフレックス®

光学シート、ハードコート剤(光硬化樹脂)
● ニューフロンティア®
(水系ウレタン樹脂)
● エラストロン®

プラスチック用難燃剤
● ピロガード®

半導体封止剤原料
● アリルグリシジルエーテル

電気絶縁用封止材(ガス給湯器制御ユニット)
● エイムフレックス®

乳化重合用界面活性剤(塗料用)
● アクアロン®

香粧品用原料(シャンプー、リンス、ヘアジェル)
● ネオハイテノール®
● カチオーゲン® ● クリージャス®
● フェノキシエタノール
● コスメライク

シートベルト用加工樹脂
● エラストロン®

内装表皮材
● スーパーフレックス®

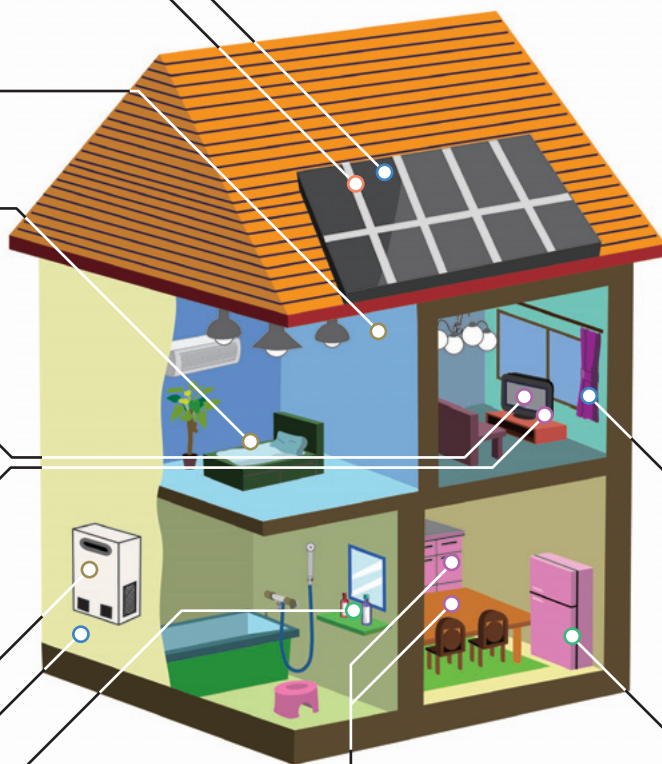
HV用電装部品用樹脂
● エイムフレックス®

塗料用樹脂
● スーパーフレックス®

乳化重合用乳化剤(タイヤ用ゴム)
● ラベリン®

- 非イオン界面活性剤
- アニオン界面活性剤
- カチオン界面活性剤
- 両性界面活性剤

- ショ糖脂肪酸エステル
- セルロース系高分子材料
- ビニル系高分子材料
- アクリル系高分子材料



建材・家具・家電製品用
コーティング剤(光硬化樹脂)
● ニューフロンティア®

食品添加物
● DKエステル®
● DKフォーマー ● セロゲン®

繊維用難燃剤
● ピロガード®

リチウムイオン電池用バインダー
● セルバインダー®



3 ウレタン材料事業

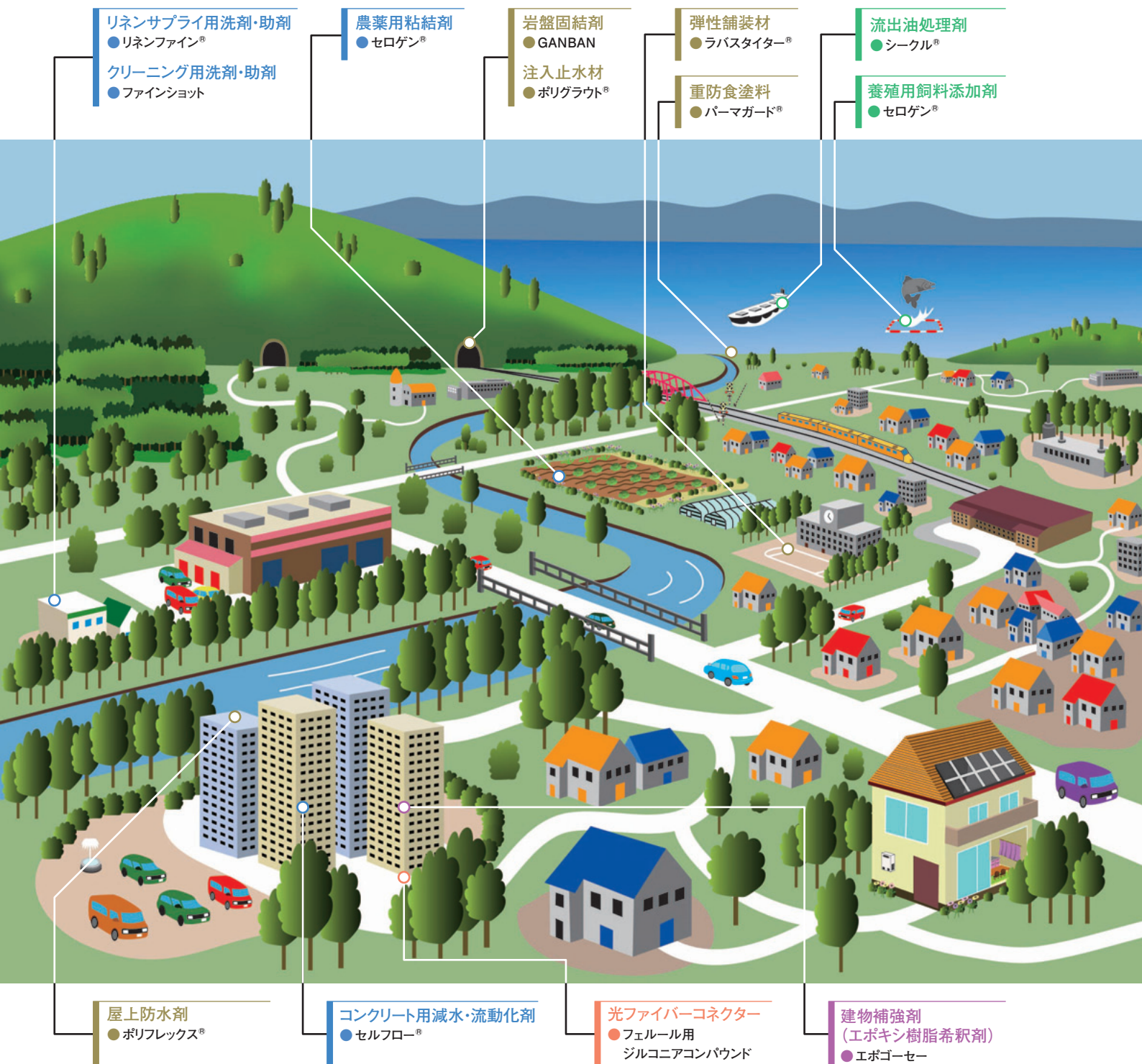
- ポリエーテルポリオール
- ウレタンシステム
- ウレタンプレポリマー

4 機能材料事業

- 光硬化樹脂用材料
- 難燃剤
- 水系ウレタン樹脂
- アミド系滑剤、樹脂添加剤

5 電子デバイス材料事業

- 電子部品用導電性ペースト
- 射出成形用ペレット





環境にやさしい製品・技術

工業用薬剤メーカーの使命の1つとして、地球環境に配慮した材料を開発することが挙げられます。長年培った化学技術のノウハウから数々の製品を開発しています。

環境に配慮した製品・技術開発

▶ 当社製品と技術開発

地球温暖化防止、省エネルギー・省資源化、環境保護・環境汚染防止など、環境要求におこたえる製品の提供と技術開発に取り組んでいます。

環境要求	機能・特長	当社製品群／技術・用途	
温暖化防止	クリーンエネルギー	色素増感太陽電池の開発	
		リチウムイオン電池	
		セルバインダー® シリーズ	リチウムイオン電池用バインダー
		DD-1200Cシリーズ	太陽電池用導電性ペースト(鉛フリー)
	非ハロゲン系	DKピーククリア® シリーズ	水系洗浄剤
DKポリオール3000シリーズ		ノンフロン対応型(水発泡)ウレタンフォーム用原料・断熱材	
省エネルギー・省資源化	エネルギーの効率化	カラゾール® CT-171D	ポリエステル用促染型均染剤
		ニューフロンティア® シリーズ	無溶剤型UV・EB硬化モノマー・接着剤、コーティング剤
		DKシステム® NFシリーズ	ノンフロン硬質ウレタンフォーム用システム・断熱材
	資源の有効活用 長寿命	スラグ固結防止剤	
		エレクセル® ILシリーズ	イオン液体・エネルギーデバイス材料
		エイムフレックス® シリーズ	電気絶縁用ポリウレタン樹脂・封止剤
環境保護・環境汚染防止	環境対応	ノイゲン® XL・TDSシリーズ	非イオン界面活性剤・乳化剤、洗浄剤
		レオクリスタ® シリーズ	セルロースシングルナノファイバー水分散体
	VOC*低減	スーパーフレックス® シリーズ	ポリウレタン水分散体・塗料、コーティング剤、バインダー
		エイムフレックス® WFシリーズ	電気絶縁用水系一液型ウレタン樹脂・封止剤
		エラストロン®・エラストロン® BNシリーズ	熱反応型ポリウレタン水分散体・バインダー、接着剤
		ニューフロンティア® シリーズ	無溶剤型UV・EB硬化モノマー・接着剤、コーティング剤
	環境負荷の低減	アクアロン® シリーズ	反応性界面活性剤・乳化重合用乳化剤
	汚染物質の除去	シークル® N-800	流出油処理剤
		デオペレット® シリーズ	悪臭ガス吸着剤

*VOC:揮発性有機化合物

▶ 環境要求にこたえる製品

セルロース応用技術を活用して開発した新規増粘剤

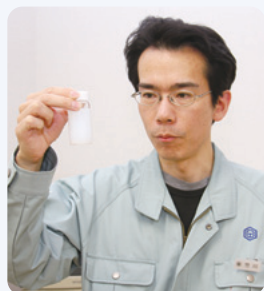
セルロースシングルナノファイバー／レオクリスタシリーズ

レオクリスタは、次世代素材として広い産業分野への応用展開が期待されている繊維幅が10nm未満に制御したセルロースシングルナノファイバー(CSNF)の水分散体です。CSNFは、セルロース由来で循環再生産が可能な環境負荷が低い新素材です。レオクリスタは、繊維幅が可視光波長より短く透明なゲルにも関わらず、液体のようにスプレー噴霧できます。この特長を活かし、化粧品分野や塗料・インキ分野などの新規増粘剤としての技術開発を進めています。



透明ゲルのスプレー噴霧

従業員の声



水系ウレタン樹脂研究グループ
竹川 淳

水系ウレタン樹脂は、ウレタン樹脂の有する優れた可とう性、強靱性、密着性を活かして塗料や接着剤、コーティング剤などに使用されています。揮発性有機溶剤を含んでいない水系ウレタン樹脂は、人や地球環境へ配慮した素材と言えます。溶剤系材料から水系材料へ置き換えると性能低下する場合がありますが、当社が培ったウレタン化技術と界面化学の技術を融合し、要求性能に対応する技術を開発しています。また、水系処方に対するお客様の多様化する要望にお応えすべく、日夜商品開発に取り組んでいます。

製品ピックアップ

長年培った化学技術のノウハウから開発した数々の製品群。工程用薬剤、中間素材の工業用薬剤のメーカーとして、多くの産業を縁の下で支え、快適で豊かな持続可能な社会の構築に貢献しています。

生産性と環境負荷低減に寄与する UV・EB硬化樹脂 ニューフロンティア®シリーズ

▶ UV・EB硬化とは

UV・EB硬化は紫外線(UV)や電子線(EB)を照射することでラジカルを発生させ、樹脂を硬化する技術です。熱による硬化方法と比べると、耐熱性の低い基材へのコーティングができます。また塗料・インキ組成を無溶剤化することができるので大気汚染を防止できます。さらに硬化速度が速いため、プロセスを高速化することができ、生産性向上を可能にします。



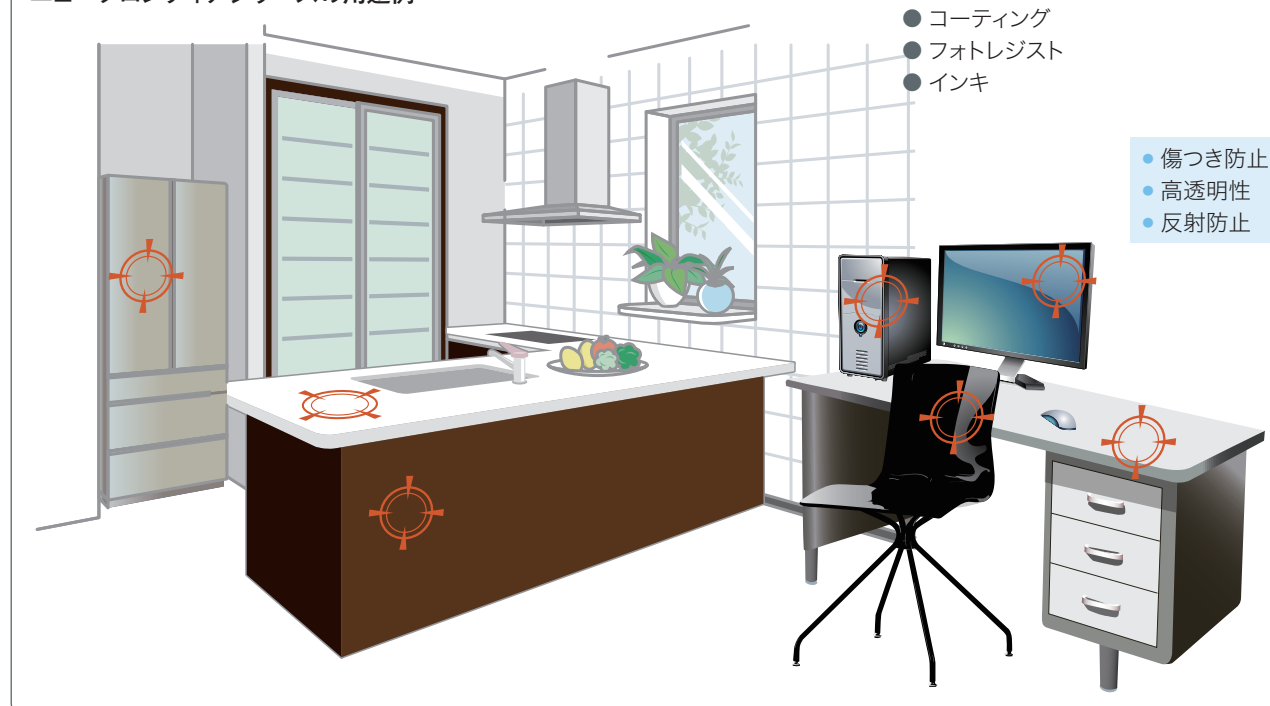
▶ ニューフロンティアシリーズについて

UV・EB硬化(ラドキュア)樹脂は、木工塗料、平版インキ、プラスチックコート、レジストインキ、光ディスク接着剤、光ファイバー被覆樹脂、LCD部材形成樹脂、UVインクジェットインキなど建材から電子材料まで幅広く使用されています。

当社は長年培った反応性界面活性剤の技術を出発として、(メタ)アクリル酸エステル化技術をベースとしたラドキュア樹脂材料をニューフロンティアシリーズとして、モノマー・オリゴマーの双方を製造・販売しています。(メタ)アクリレートモノマーは、低イオン不純物、低皮膚刺激性、低硬化収縮、親水性・疎水性のバランス付与、可とう性が特長です。

オリゴマーでは、ウレタン化技術をベースとしたウレタンアクリレートを中心として機能性オリゴマー・反応性ポリマー材料としてニューフロンティアRシリーズを展開しています。

ニューフロンティアシリーズの用途例





信頼される企業を目指して

社会から高い信頼を得られるようにコーポレートガバナンス体制を維持しています。
企業組織が適正に運営されるための統制システムを適宜運用していきます。

CSR推進のために

社是

「産業を通じて、国家・社会に貢献する」

社訓

「品質第一」「原価逋減」「研究努力」

当社は、企業の社会的責任(CSR)に根ざした透明かつ公正な企業活動を行い、社会、お客様・取引先、株主・投資家、従業員など全てのステークホルダーから高い信頼を得ることが重要であると考えています。社是、社訓を実現しCSRを推進するため、「企業倫理憲章」、「役員・従業員行動宣言」を制定、コーポレートガバナンス、コンプライアンス、内部統制、リスク管理に取り組んでまいります。当社グループは、経済・社会・環境の側面からCSRを推進し、存在感の高い企業を目指します。

▶ 企業倫理憲章

当社は、企業倫理の確立が、社是である「産業を通じて、国家・社会に貢献する」の実践に資することを確認し、6項目の原則に基づいて、全ての法令、国際ルールおよびその精神を遵守するとともに、事業活動を行う各国および地域の文化・慣習を尊重し、社会的良識をもって行動することを定めたものです。

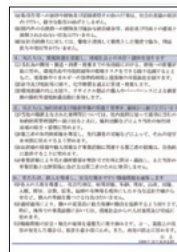
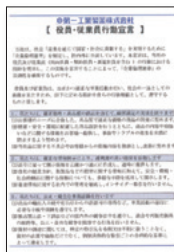
企業倫理憲章の項目

1. 有用な製品提供と顧客満足の実現
2. 経営の透明性の確保
3. 反社会的勢力との関係の遮断
4. 環境保全と地域社会との調和促進
5. 知的財産と情報の管理徹底
6. 個人の人格の尊重



▶ 役員・従業員行動宣言

役員・従業員行動宣言は、役員および従業員(出向社員・契約社員・派遣社員を含む)の一人ひとりが「企業倫理憲章」に掲げた基準を遵守するための基本的な心構えと日々の行動における指針を明示したものです。「役員・従業員行動宣言」はカード化し、全役員・従業員に配付しています。2006年「公益通報ホットライン」を設置し、法令違反行為などを従業員が相談・通報できる窓口として、疑問や相談などを電話、メール、郵便など手段を問わず受け付けています。



役員・従業員行動宣言リーフレット

コーポレートガバナンス

当社は、継続的に企業価値を向上させるためには、社会から信頼を得られる経営基盤の確立を目指し、企業の社会的責任に根ざした透明かつ公正な企業活動を行うことを基本としています。この活動を支える経営管理体制およびその他のコーポレートガバナンス体制を構築し、強化を進めています。

業務執行上の意思決定は、社外取締役を含む取締役会で決定しています。取締役会に付議する案件は事前に「経営会議」で審議し、法令および定款に適合し、かつ合理的な意思決定が行われるよう努めています。

また、執行役員制度を導入しており、取締役会決定事項の実施、その他業務執行は執行役員が担っています。執行役員は社長執行役員、常務執行役員、上席執行役員、執行役員からなり、本部長、事業部長などに配され、取締役会がその任免および監督を行います。執行役員は担当する部門の直接的な業績責任を負い、業績報告、重要事項の報告を執行役員会にて

行い、統一的かつ円滑な業務執行に努めています。

当社の監査役は、社外監査役を含めた監査役会を組織しています。経営計画の進捗、代表取締役が行った決裁、損失の危険の管理に関する状況、重要な会計方針の変更などの、職務執行の監査に必要な報告を取締役および使用人に求め、また、常勤監査役が「経営会議」「リスクマネジメント統制委員会」「コンプライアンス統制委員会」などの会議に出席し、日常的に監査を行っています。監査上の重要な課題などについては、監査役会が代表取締役との定期的な会合の中で意見交換を行い、代表取締役との相互認識と信頼関係を深めるよう努めています。会計監査は、「有限責任あずさ監査法人」が実施し、必要に応じて監査役が会計監査に立会います。

また、財務報告に関わる内部統制システムを検証するための仕組みとして、内部監査室を設置しています。



持続的に発展できる社会へ

当社は「環境・安全・健康」を確保するレスポンシブル・ケア活動を通して、地球環境を保全し、循環型社会の構築をはかります。



執行役員 生産管理部長
環境・安全・品質保証担当
村上 修

当社は、単に法令遵守に満足することなく、環境・安全・健康に配慮することを経営方針のもとで公約し、自主的に環境安全対策の実行、改善をはかっていくレスポンシブル・ケア活動を推進しています。

「環境保全」活動においては、2013～2015年度を期間とした温室効果ガスと産業廃棄物の中期削減目標を設定して取り組んでいます。小規模ながら排水の嫌気処理で発生するメタンガスの再生バイオマス燃料による電力供給を開始し、化学物質排出削減、水質汚濁防止法改正の対応も推進しています。

「保安防災」活動では、化学業界における重大な事故を受け、同様の事故発生の可能性を評価、緊急時対応のマニュアルの見直しを行い、危険箇所・危険プロセスの抽出と対策を実施しました。また、有事に備え定期的な防災訓練に努めています。

「労働安全衛生」活動においては、災害ゼロを目指し安全衛生委員会、リスクアセスメント委員会で継続した安全活動(KYT、パトロール、5S、指差呼称の徹底)で現場力の向上を推進しています。レスポンシブル・ケア活動の自主管理の精神のもと、社会から信頼されるように、今後とも継続して安全・安心な生産活動に努めていきます。

環境・安全に関する基本理念・基本方針・行動指針

基本理念

当社は、全ての事業活動において「顧客が満足する製品の提供を行うことにより、地域社会、従業員と共に繁栄する企業を目指し、豊かな社会づくりに貢献する。」を掲げ、この理念に基づき「製品の開発から廃棄に至るまでの全ライフサイクルにわたり、人の安全と健康および環境の保全に配慮し、持続的発展と豊かな社会の実現に貢献する。」を環境・安全に関する基本理念とする。

基本方針

- ① 製品の開発から廃棄に至るまで製品の全ライフサイクルにわたり、環境負荷の評価と低減を行い、環境保全に努める。
- ② 無事故・無災害の操業を続け、地域社会と従業員の安全を確保する。
- ③ 原料、中間品、製品の安全性を確認し、従業員、物流関係者、顧客、一般消費者など関係する人々への健康障害を防止する。
- ④ 関係法令や規制を遵守することはもとより、自主管理による環境、安全の継続的改善に努める。

行動指針

- ① 事業活動が環境・安全に与える影響を評価し、環境目的・目標および安全目標を定めると共に定期的に見直しを行い、環境保全、労働安全衛生活動の継続的改善を図る。
- ② 環境および労働安全衛生に関わる法令および規制、協定を遵守し、地域社会との共生に努める。
- ③ 環境負荷の低減を図るため、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減・リサイクルなどの推進および労働安全衛生向上に向け、全ての事業活動において取り組む。
- ④ 製品・技術の開発にあたっては、環境・安全に配慮し、製品の環境への影響を認識し、安全な製品を提供できるよう事業活動に取り組む。
- ⑤ 環境・安全教育、社内広報活動などを実施し、全従業員の環境・安全方針の理解と、環境・安全意識の向上を図ると共に、関係する協力会社へも理解と協力を求める。

ポイント解説

レスポンシブル・ケア活動とは…

化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行う活動のことです。



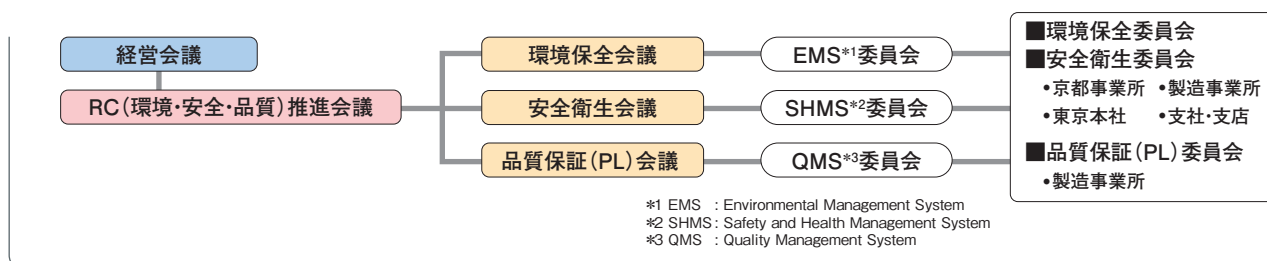
レスポンシブル・ケア

推進体制

当社は環境・安全・品質(RC)に関する最高意志決定機関として、社長を議長とした「RC推進会議」を設置し、環境・安全の基本理念、基本方針および行動指針に基づき、付議事項を審議し決定しています。

RC活動の推進は、環境・安全・品質保証担当を議長とし、各事業所長および関係部門長・部署長から構成される「環境保全会議」、「安全衛生会議」、「品質保証(PL)会議」を設置して、

全社の目標、実施計画・結果の審議などを行っています。各会議の下部組織として「EMS委員会」、「SHMS委員会」、「QMS委員会」、さらに各部門においては、「環境保全委員会」、「安全衛生委員会」、「品質保証(PL)委員会」を設置しています。これらの委員会では定期的に会議を開催し、目標に対する実施計画の策定、進捗管理、結果の総括を実施しています。



マネジメントシステム

当社のRC活動は、「RC推進管理規程」、「環境保全・安全衛生管理規程」、「品質保証管理規程」で規定し取り組み、実践しています。

国内外の各生産拠点で、環境、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO14001、ISO9001を認証取得し、ツールとして活用してPDCAサイクルを回して、環境保全、品質の向上をはかり、継続的な改善に取り組んでいます。ISO取得部門では、年1回の内部監査と年2回のマネジメントレビューを実施し、システムの改善につなげています。

PDCAサイクル

- 監査と評価
RC推進部署による監査の実施および環境保全・安全衛生会議による評価
- 現状把握、課題の抽出
- 実施
各部署によるRC活動、ISOなどのマネジメントシステム活用による活動実施
- 結果の記録、報告書の作成



第一工業製薬グループのISO認証取得状況

事業所および関係会社		ISO14001		ISO9001		
		取得年月	認証機関	取得年月	認証機関	
国内生産事業所	部署名	四日市事業所	2002年6月	JCQA	2000年1月	JCQA
		大瀧事業所	2002年7月	JCQA		
		滋賀事業所	2002年3月	JCQA		
		生産管理本部	—	—		
		業務本部	—	—		
		研究部門	—	—		
	関係会社	四日市合成株式会社	1999年3月	JCQA		
京都エレックス株式会社	2001年12月	JQA	2000年6月	JQA		
第一セラモ株式会社	—	—	2011年2月	JQA		
海外関係会社	天津達一琦精細化工有限公司	2006年12月	ZDHY	2001年8月	ZDHY	
	晋一化工股份有限公司	2006年12月	BSMI	1995年4月	BSMI	
	P.T. DAI-ICHI KIMIA RAYA	—	—	2009年9月	BVI	
	双一力(天津)新能源有限公司	—	—	2007年3月	CQC	



活動目標に向けて改善を

当社では年度ごとに具体的な活動目標を掲げ、RC活動を実施しています。
環境関連設備にも投資し、今年度も継続的改善をはかっていきます。

活動目標と実績(第一工業製薬グループ)

▶ 2013年度活動目標と結果

評価 ◎:大きな成果 ○:目標に沿った成果 △:目標未達成

取り組み項目	管理項目	活動目標	2013年度結果	評価	参照ページ
省エネルギーの推進	エネルギー原単位	年度率1%改善	前年度比 6.9%改善	◎	P17
温室効果ガスの削減	炭酸ガス排出量(※1)	2013~2015年度平均で 2005年度比28%削減	2013年度は、 2005年度比27.3%削減	△	P17
産業廃棄物の削減	廃棄物原単位	年度率1%改善	前年度比 17.9%改善	◎	P20
	リサイクル化率	リサイクル化率の向上	88.9%で前年度比 1.0%低下	△	
	最終処分量	2015年度に2000年度比80%削減	2000年度比73.2%削減	△	
	最終処分率(※2)	2015年度に1%以下	2.4%	△	
環境負荷物質の 排出削減	SOx排出量	大気への環境汚染物質の排出管理	前年度比13.6%削減	◎	P18
	NOx排出量		前年度比14.9%削減	◎	
	ばいじん排出量		前年度比10.5%削減	◎	
	COD排出量	水域への環境汚染物質の排出管理	前年度比23.1%増加	△	
	排水量		前年度比1.7%削減	○	
化学物質の適正管理	PRTR対象物質排出量	PRTR対象物質の排出削減	前年度比1.5%増加	△	P19
グリーン購入の推進		事務用品のグリーン購入比率の向上	前年度比13.3%増加	◎	—
災害事故の撲滅		労働災害(休業)の発生ゼロ	発生ゼロ	○	P21
		生産設備に関わる重大事故撲滅	発生なし	○	
環境マネジメントシステム		環境マネジメントシステムの推進	維持	○	P14

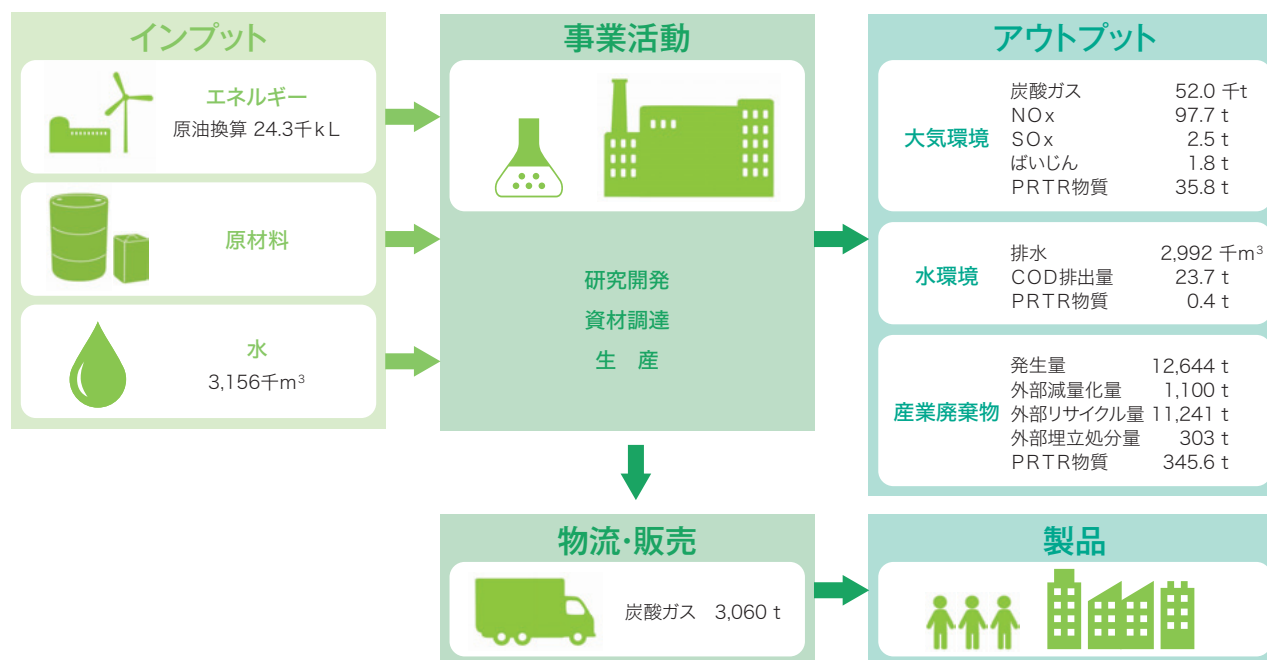
※1 生産部門および管理部門のエネルギー由来 ※2 廃棄物発生量に対する最終処分量の比率

▶ 2014年度活動目標

取り組み項目	管理項目	2014年度活動目標
省エネルギーの推進	エネルギー原単位(※1)	年度率1%改善
温室効果ガスの削減	炭酸ガス排出量(※2)	2013~2015年度平均で2005年度比28%削減
産業廃棄物の削減	廃棄物原単位	年度率1%改善
	リサイクル化率	リサイクル化率の向上
	最終処分量	2015年度に2000年度比80%削減
	最終処分率(※3)	2015年度に1%以下
環境負荷物質の 排出削減	SOx排出量	大気への環境汚染物質の排出管理
	NOx排出量	
	ばいじん排出量	
	COD排出量	水域への環境汚染物質の排出管理
	排水量	
化学物質の適正管理	PRTR対象物質排出量	PRTR対象物質の排出削減
グリーン購入の推進		事務用品のグリーン購入比率の向上
災害事故の撲滅		労働災害(休業)の発生ゼロ
		生産設備に関わる重大事故撲滅
環境マネジメントシステム		環境マネジメントシステムの推進

※1 省エネ法の改正(平成26年4月1日施行)により、導入された電気需要平準化評価原単位を含む ※2 生産部門および管理部門のエネルギー由来 ※3 廃棄物発生量に対する最終処分量の比率

▶ 事業活動に伴う環境負荷



環境会計(第一工業製薬グループ)

2013年度の環境関連設備への投資は、公害防止、省エネルギー推進、廃棄物のリサイクル化を中心に行いました。環境保全関連費用については、公害防止関連費用が増加しました。経済効果

として、当該年度における有価物の実際の売却益と費用節減益を計上し、推計に基づく経済効果は加算していません。

▶ 環境保全の投資額と費用額

分類	主な取り組み内容	投資額(百万円)	費用額(百万円)
事業エリア内コスト	公害防止 大気汚染防止・水質汚濁防止	333.0	482.2
	地球環境保全 省エネルギー	8.7	171.2
	資源循環 省資源、廃棄物処理・処分	6.8	311.1
上・下流コスト	容器包装などの低環境負荷化	0.0	0.7
管理活動コスト	ISO取得・維持、事業場内緑化	0.7	54.8
研究開発コスト	環境対応のための研究開発	0.0	493.1
社会活動コスト	環境保全団体、地域への環境保護支援金	0.2	6.4
環境損傷コスト		0.0	0.0
合計		349.4	1,519.5

▶ 環境保全対策に伴う経済効果

項目	内容	経済効果(百万円)
有価物の売却益	金属屑、廃油、アルカリなどの売却益	15.8
省エネルギーによる費用節減額	電力と燃料の節減益	22.0
省資源による費用節減額	水・廃棄物削減による節減益	6.4
合計		44.2



環境負荷の削減を推進して

地球温暖化防止に向けて、省エネルギーを推進しています。
汚染物質の排出管理も行い、削減に努めています。

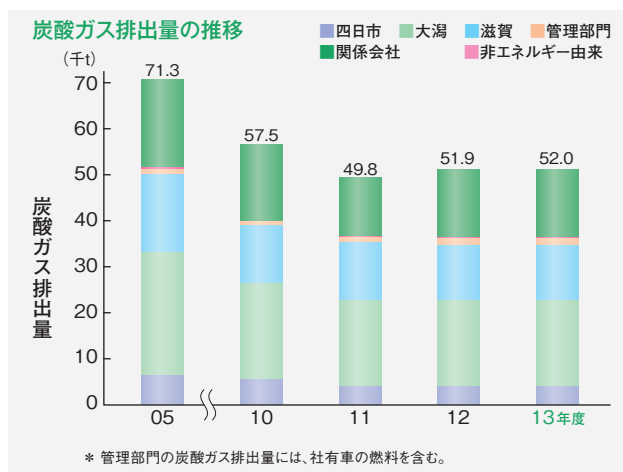
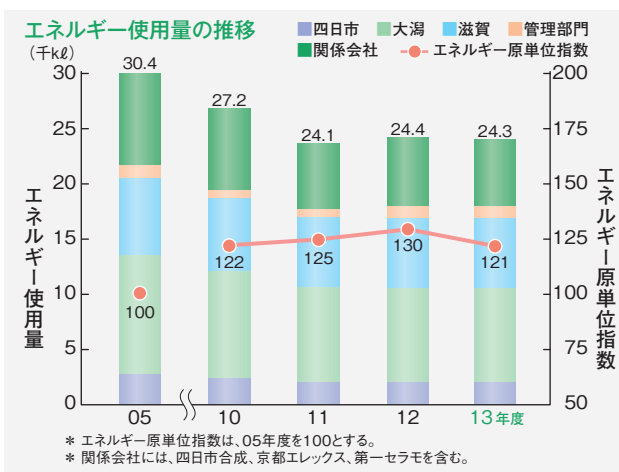
地球温暖化防止(省エネルギー)

2011年4月に四日市合成を完全子会社化したことにより、環境パフォーマンスデータは第一工業製薬グループ(第一工業製薬と四日市合成を含む全ての国内関係会社の集計値)で表記しています。

▶ エネルギー使用量、炭酸ガス排出量の推移

第一工業製薬グループの2013年度のエネルギー使用量は、24.3千kℓで、前年度比で0.4%削減しました。また、エネルギー原単位は生産量の増加があったことから、前年度比1%改善の目標に対して6.9%改善しました。炭酸ガス発生量は52.0千tで、原子力発電所の停止にともなう電気事業者ごとの実排出係数の増加の影響などにより、前年度比で0.2%増加しました。

なお、2013～2015年度の平均で2005年度比28%削減する中期目標に対して、初年度は27.3%の削減となり、目標値には届きませんでした。エネルギー利用効率の向上などの取り組みにより、2013～2015年度中期目標達成に向けた炭酸ガス排出削減を推進していきます。



▶ 物流部門における取り組み

当社製品の物流業務は外部運送会社に委託しています。輸送には、トラック便、鉄道便、船舶便を使用していますが、お客様の希望納期に即応できるトラック便がほとんどです。環境負荷に対しては、省エネ法の特定荷主として、負荷の低減に取り組んでいます。2013年度は輸送量が0.7%増加しましたが、モーダルシフトの推進により、エネルギー消費量は増減なく、温室効果ガス排出量を0.3%削減しました。さらにエネルギー使用原単位は0.7%改善されました。物流部門の環境負荷削減は、温暖化対策の面だけでなく、大気汚染や廃棄物の排出にも影響する重要な課題です。今後も、より一層のモーダルシフトを推進するとともに貸切り便の積載率の向上、返品輸送の削減

などを通じて省エネ法の目標である前年度1%のエネルギー使用原単位の改善につなげる活動を進めていきます。また、物流協力会社と環境負荷活動を共有しPDCAサイクルを回しながら年々、活動成果の向上を目指します。

特定荷主としての環境負荷

項目	2013年度	対前年度
輸送量	31,446 千トン・km	+0.7%
エネルギー消費量	45,358 GJ	±0.0%
エネルギー原単位	1.442 GJ/千トン・km	-0.7%
CO ₂ 排出量	3,060トン-CO ₂	-0.3%

※ 改良トンキロ法による算定、四日市合成は含まない

▶ 節電の取り組み

2013年度も引き続き、原子力発電所の停止による電力不足対策のため、節電に取り組みました。全社的な取り組みとして、クールビズ(5月～10月)継続による空調機の設定温度抑制、過剰な照明の減灯や不要時の消灯を行いました。京都事業所(本社・研究所)では、夏季、空調室外機へのシャワーリングやピーク電力を低減させるデマンドコントロールシステムを導入しました。

四日市事業所では、クーリングタワーを清掃・維持管理することにより、使用電力量の削減に努めました。大湊事業所では、廃水処理で発生するメタンガスを利用して発電できる「バイオガス発電機」を新たに導入しました。発電した電力は、再生可能エネルギー固定買取制度を利用して、2014年度から電力会社に供給します。

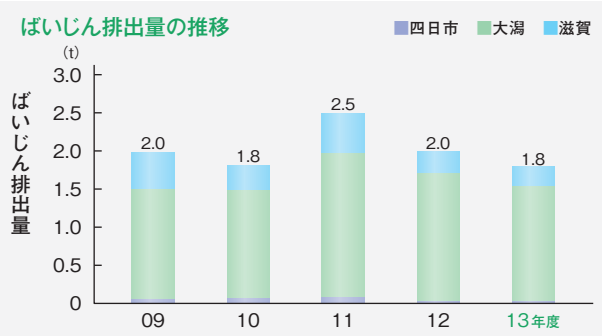
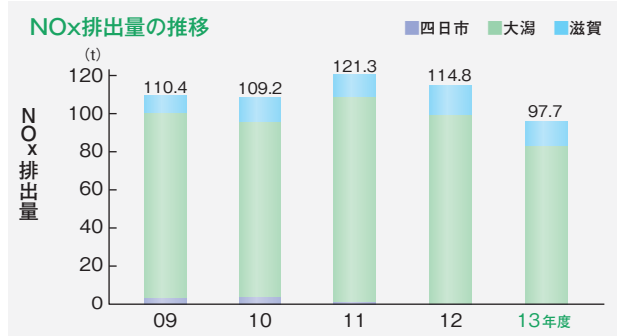
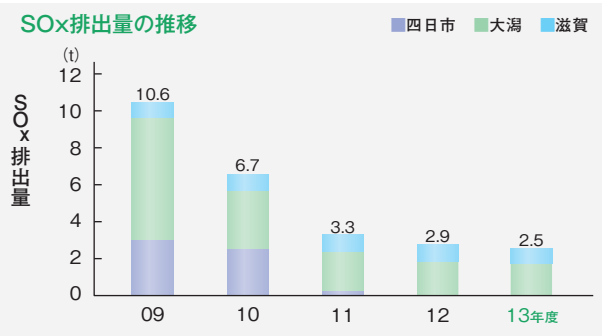
2014年度も、引き続き節電に取り組みます。

化学物質排出削減の取り組み

▶ 大気汚染防止

2013年度の大気汚染物質の排出量は、効率的な生産計画による設備の稼働調整により、前年度と比較して、SOx排出量は13.6%、NOx排出量は14.9%、ばいじん排出量は10.5%、それぞれ削減となりました。さらに、効率的な運転方法の検討を進めていきます。

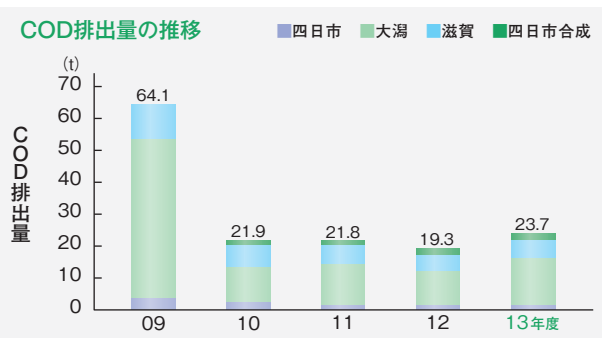
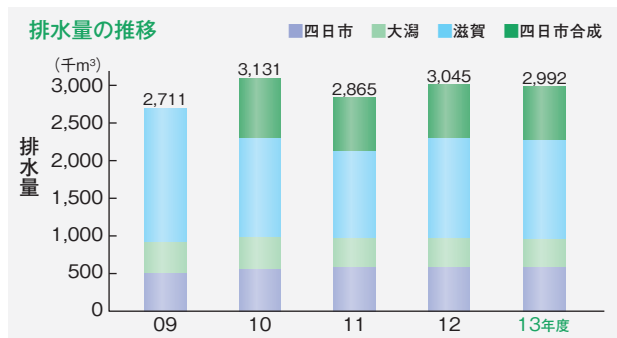
なお、四日市合成は、SOx、NOx、ばいじんの発生に関わる施設はありません。



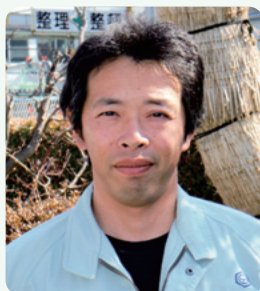
▶ 水質汚濁防止

第一工業製薬グループの2013年度の排水量は、2,992千m³で前年度比1.7%の削減となりました。また、COD排出量は、23.7tで前年度比23.1%の増加となりました。引き続き、生産

工程や排水処理設備の改善、生産設備の洗浄方法の見直しを進め、排水量とCOD排出量の削減に努めていきます。



従業員の声



小林
英樹
総括課

滋賀事業所の水質汚濁防止の取り組み

滋賀事業所の排水は、活性汚泥法により処理しています。水質汚濁防止法および県・市条例ならびに「公害防止協定」に基づき、自動計測連続監視および計測器の校正をもとに維持・管理を行っています。

滋賀事業所の排水量は当社事業所の中で最も多く、特に排水処理設備の安定化と定期的な保全活動が重要であると認識し、業務にあたっています。ここ数年の取り組みでは、生物処理に悪影響を与える化学物質を特定して廃棄物としてのリサイクル処理化、曝気槽容量の増設、工程解析による排水負荷の均一な供給、管理基準の見直しを実施し、その結果処理水の水質の安定化でCOD排出量の削減を達成することができました。今後とも、水質のみに関わらず環境法令遵守を基本として、事業活動にともなう環境負荷の低減に取り組んでいきます。



化学物質・廃棄物の削減

化学物質や廃棄物の削減にも取り組んできました。
化学物質の適正な管理をルール化した規定をもとに実施しています。

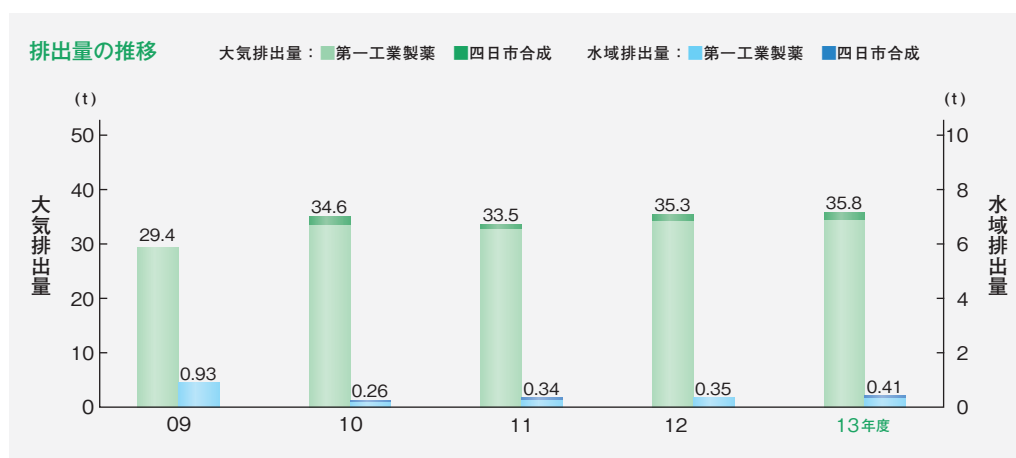
化学物質排出削減の取り組み

▶ PRTR法対象物質の排出量

第一工業製薬グループの2013年度のPRTR法届出対象物質は63物質でした。その総排出量は36.2tで、前年度比では0.5tの増加となりました。排出量の内訳は、大気35.8t、水域0.41tで、土壌への排出はありませんでした。

廃棄物移動量は、345.6tで、トルエンのリサイクル使用への

促進などを実施しましたが、生産量の増加や品種構成の変化により、前年度比35.6tの増加(+11.5%)となりました。今後とも、製造方法の変更やプロセスの改善、回収装置の導入を進め、環境への排出削減をはかっていきます。



* 2010～2013年度は第一工業製薬と四日市合成の合計

* 2013年度のPRTR届出排出量(届出対象物質のうち、排出または移動量が0.01 t以上の物質)は、当社ホームページに掲載しました。
<http://www.dks-web.jp/download/rc.html>

化学物質管理

当社は、地球環境の保全、事故の防止、労働安全や健康確保、製品安全のために、「化学物質管理規程」を制定し、これに基づき「製品のライフサイクルを通して化学物質の適正な管理」に取り組んでいます。使用化学物質と量の把握、有害化学物質の代替・削減、周辺環境の改善、製品含有化学物質管理

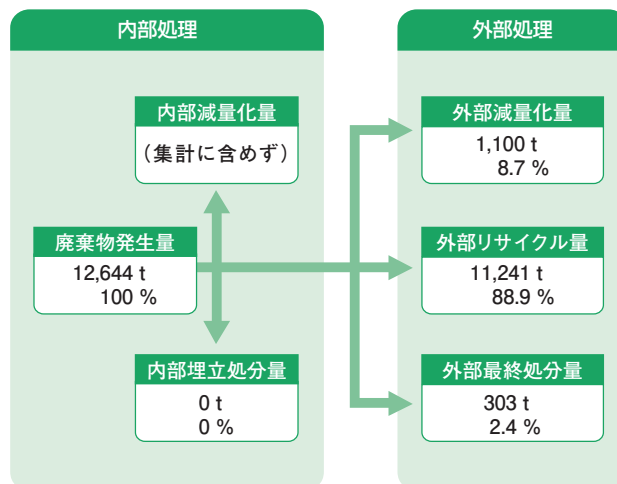
(グリーン調達)などルール作りをしています。国内外の法規制や国際的な取り決め、お客様からの要請などをもとに取り扱う化学物質を3クラスに分類し、クラスごとに管理内容を定めています。

化学物質管理のクラスと内容

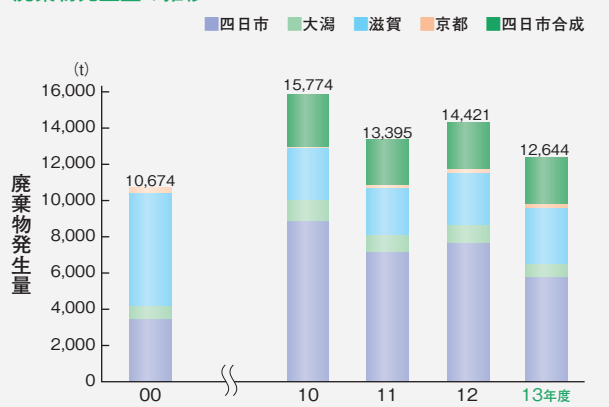
ク ラ ス		内 容
Aクラス	禁止物質	製品への使用を禁止する化学物質
Bクラス	削減物質	環境への観点からは全廃が望ましい化学物質であり、使用しているものの処方変更を推進する化学物質
Cクラス	管理物質	排出・移動量の削減およびリサイクルに取り組む物質であり、上記A・Bクラスの物質を除く化学物質

廃棄物削減の取り組み

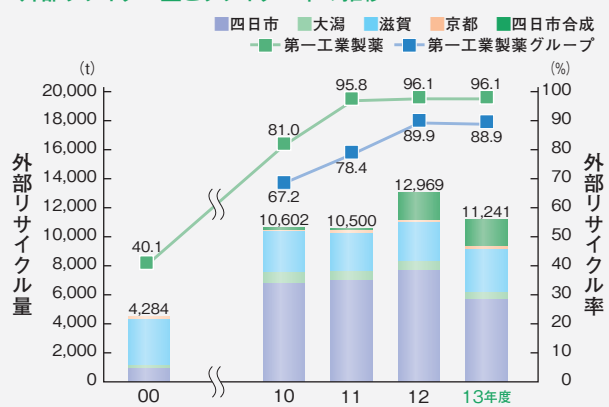
2013年度のグループの廃棄物発生量は、12,644tで前年度より1,777tの削減(-12.3%)となりました。生産量の増加などにより、生産量あたりの廃棄物原単位(目標:対前年度比1%改善)も、前年度比17.9%の大幅な減少となりました。外部リサイクル率は、88.9%で前年度に比べ1.0%低下しました。最終処分量(目標:2015年度に2000年度比80%削減)は、前年度より25t増加の303tで2000年度対比73.2%削減に相当する結果でした。また、廃棄物発生量に対する最終処分量は、2.4%でした。2015年度に1%以下にする目標達成に向け、処分量の多い大潟事業所の他、各事業所で最終処分量の削減に取り組んでいます。資源の有効利用のため、工程の改善や処理方法の検討で廃棄物の削減(Reduce)・再資源化(Recycle)・再利用(Reuse)の3Rに取り組んでいます。



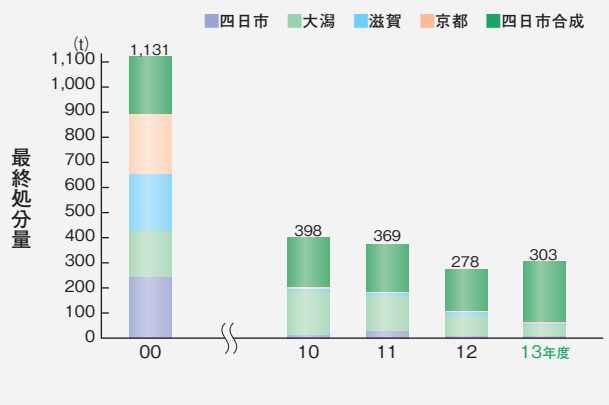
廃棄物発生量の推移



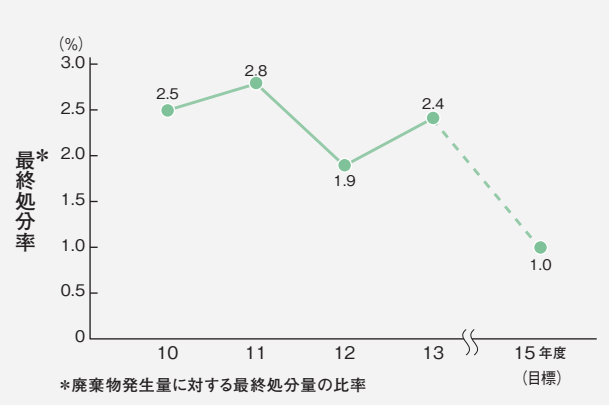
外部リサイクル量とリサイクル率の推移



最終処分量の推移



最終処分率の推移



▶ 環境に関連した苦情

2013年度は、騒音に関する苦情が2件ありました。直ちに応急処置を行うとともに再発防止対策を実施しました。



安全確保と保安防災

安全で働きやすい職場環境の確保に努めています。
万一の緊急事態に備えて、防災訓練にも取り組んでいます。

労働安全の取り組み

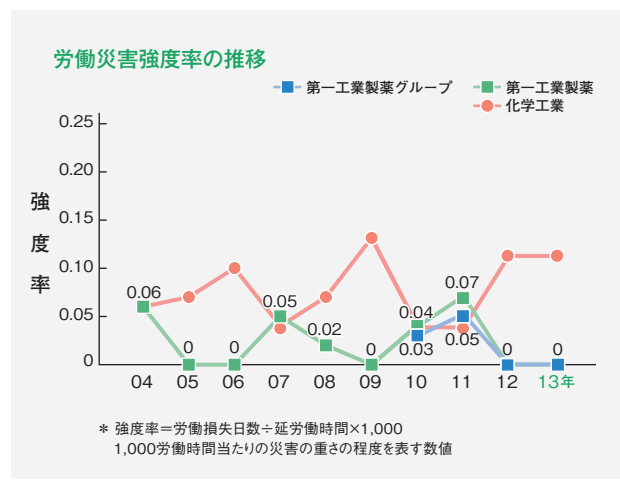
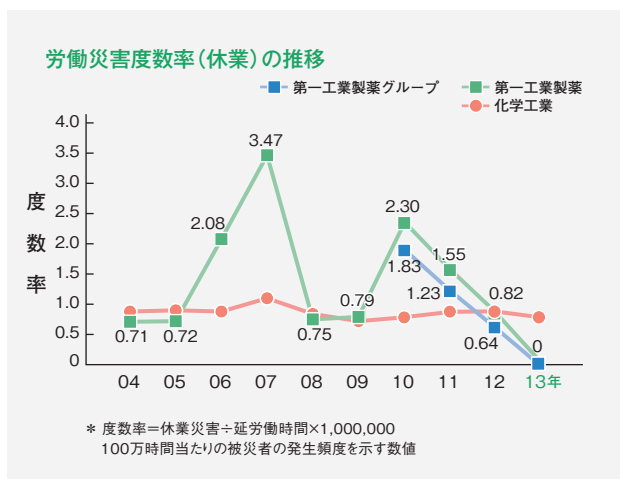
安全確保は経営の基盤であり、あらゆる事業活動の基本であると認識し、「安全第一」、「人間尊重」を根幹として「災害の撲滅」に取り組んでいます。また、安全で働きやすい職場環境の確保を目指し、5S活動を推進しています。2013年は休業災害の発生は無く、全社「休業災害ゼロ」の目標を達成することができました。災害事例については、発生要因を解析し、他部門へ水平

展開を行い再発防止に努めています。また、重点項目として、定期的な予防処置の実施と管理者による安全パトロールを充実させ、不安全箇所・不安全作業の摘出に取り組んでいます。さらには「危険予知活動と指差呼称」「リスクアセスメント活動」「体感型安全教育」などを継続し、災害ゼロを目指します。

労働災害度数率・労働災害強度率(2013年1月1日~2013年12月31日)

第一工業製薬グループの労働災害度数率(休業)は、2010年から減少傾向に転じ、2013年は休業災害の発生が無かったことからゼロとなりました。

2014年も引き続き「労働災害度数率ゼロ」を目指し、従来からの安全活動をさらに強化していきます。



▶ 体感型安全教育

労働災害防止の意識向上をはかるため、2010年度から体感型安全教育を開始し、2013年度は製造部門研修に取り入れられました。日常における安全意識の向上を課題に挙げ、受講者に擬似体験を通して災害の怖さを感じてもらうため企画しています。具体的には、「溶剤爆発」「ローラー巻き込まれ」「配管圧力」の擬似体感装置を用いた実習を行い、潜んでいるさまざまな危険について、考えてもらいました。

研修後に受講者からは、「小さな装置でもパワーを感じ、実際の大型設備の危険性を感じた。」「実際に自分の目で見て体験することにより、災害に対する意識が強まった。」などの意見が聴かれ、予防につながる良い経験となっています。

今後も教育や研修を通して、安全知識や安定作業の大切さを伝え、個々の安全意識が高まるように体感型安全教育を継続していきます。

▶ 物流における安全の取り組み

当社は、製品の保管・輸送に関わる物流業務を外業者に委託していますが、レスポンス・ケアの精神にのっとり「物流の安全と環境保全の確保、顧客への物流品質の保証とサービスの提供」などを活動指針として掲げ、委託先協力会社と一体となり物流部門全体としての取り組みを進めています。特に物流事故の撲滅を目指し定期的な協議会活動を開催し、「安全

運行・交通秩序の維持」「改正法規」「納品作業安全環境基準」「輸送仕様書」などで情報の提供や教育・指導を行っています。また、化学品を取り扱う輸送ではイエローカード(製品輸送時の緊急連絡カード)の携行や容器イエローカードとして製品ラベルにも指針番号や国連番号の記載を実施しています。

保安防災の取り組み

▶ 緊急事態への対応

火災・爆発、地震、漏洩、停電など万が一の緊急事態が発生した場合に備えて、事業所ごとに保安防災体制を確立し、年度計画に従って防災訓練を実施しています。また、地域の消防署のご協力を得て合同で訓練を行うなど地域と連携した訓練も

行っています。

化学メーカー固有の事故、災害の未然防止のため、潜在的危険性を始めとした危険有害性のリスク評価に基づき対策を講じ、火災、爆発などの災害防止に取り組んでいきます。



京都事業所



四日市事業所



大湊事業所



滋賀事業所

▶ 保安防災対策投資

2013年度の保安防災対策への投資額は、238.6百万円でした。おもに「爆発・火災・漏洩対策」「設備老朽化対策」「労働安全・作業環境改善対策」に投資しました。

従業員の声

滋賀事業所の労働安全・保安防災の取り組み



水崎 研三
総括課

滋賀事業所では、従業員自ら日々の作業に潜む危険に気付く能力を向上させることを目的とし毎月、各職場でKYTを実施しています。さらにその中から数件をピックアップし、安全衛生委員会の場で議論することで、情報の共有化をはかっています。また、毎月開催しているリスクアセスメント委員会では、独立した予算を確保し、リスクの抽出・評価から対策案の検討、対策実施後の評価までを委員会で一貫して行い、従業員による主体的な活動として展開されています。その他、年間3回実施している避難訓練・防災訓練では、従業員のみならず場内で作業をされている業者の方々にも積極的に参加してもらうとともに、水消火器を用いた初期消火の訓練にも力を入れています。



地域に向けて開かれる活動

当社の取り組みを知っていただくため各媒体での情報発信や展示会の出展、各事業所を拠点に地域での活動も積極的に行っています。

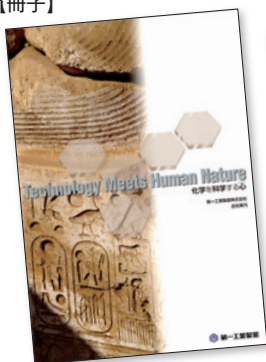
情報発信ツール

▶ 情報の発信

ステークホルダーのみなさまに当社の状況を知っていただくため、会社案内、社報「拓人」、「環境・社会活動報告書」などを冊子として発行し、情報を発信しています。当社ホームページにはこれらの情報のほか、技術・製品情報、採用情報などを掲載しています。環境・社会活動報告書は2006年度版より掲載しています。



【冊子】



会社案内



環境・社会活動報告書



社報「拓人」

▶ 展示会出展

2013年度は下記の展示会に出展しました。

2013年 6月	第19回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会 京都大学 第一クリーンケミカルがアメニクリーン®、エアークム®を出展
2013年 9月	第15回中国国際光電博覧会(CHINA INTERNATIONAL OPTOELECTRONIC EXPO 2013) 第一セラモがジルコニアコンパウンドを出展
2013年 11月	第11回リーディング産業展 みえ 2013 四日市ドーム セルローズシングルナノファイバー(CSNF)を出展

第15回中国国際光電博覧会

(CHINA INTERNATIONAL OPTOELECTRONIC EXPO 2013)

第一セラモは、中国深圳で世界最大の光通信関連の展示会「CIOE2013」に粉末射出成形用コンパウンドを代理店と共同で出展しました。

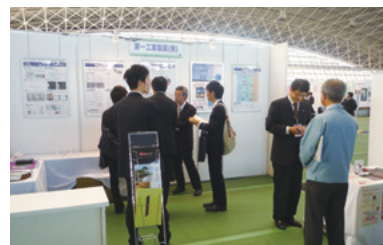
ジルコニアコンパウンドは、光通信用のコネクタ部品であるフェルールの原料に用いられます。当ブースに多くの来場者が立ち寄り、関心の高さを実感しました。



第11回リーディング産業展

さまざまな産業分野を支えリードする、意欲にあふれた企業や研究機関などが連携・協働して、新しい事業を創造する「協創」の場が「リーディング産業展みえ」です。

当社は四日市地区での事業の方向性を、行政・地元企業や研究機関・学生に向けて情報発信しました。当社、四日市合成、エレクトセルの3社と、新規事業化を決定したセルローズシングルナノファイバーを紹介しました。



社会・地域との関わり

当社の資源を活用し、社会への貢献を推進しています。業界団体と連携した活動、工場見学の受入れ、近隣の清掃活動、地域行事への参加など、事業所ごとに協議会などを通じて社会・地域のみなさまとのコミュニケーションをはかっています。

▶ 地域とのコミュニケーション

「情報開示」と「近隣地域の方とのコミュニケーション」の一環として、事業所における環境保全や安全対策などの取り組みや事業活動について地元自治会のみなさまに説明し、化学工場のリスクと情報交換についてのご意見とご提案を伺う機会としています。また、行政への取り組みの説明、地域協議会と連携した取り組みを実施しています。

京都市南区が推進している企業の「知、活用促進事業に協力し、区民の方々を対象とした事業所紹介、「私たちの生活に身近な化学」をテーマにした講座とハンドソープ作りの体験をしていただきました。小学生、保護者、ご年配まで幅広い年齢層の方35名にご参加いただき、展示ルームでの当社製品紹介や研究室を説明した後、洗剤が汚れを落とす仕組みについての化学実験やオリジナルのハンドソープ作りを交えて楽しく化学を学んでもらいました。地域住民の方々との直接のコミュニケーションを持つ良い機会になりました。



地域自治会パトロール(滋賀事業所)



区民交流会(京都事業所)

▶ 業界団体での活動



電気保安功労者表彰(2013年8月29日)

8月29日、関西電気安全委員会から京都事業所は、継続した安全保安実績や節電対策が認められ、電気保安の確保・向上に顕著な功績があったことより電気保安功労者として当社では初めて、「電気保安功労者表彰」を受賞いたしました。京都事業所では、2008年からデマンドコントローラーを導入し、継続して負荷抑制対象機器を増やし、適正な電力負荷管理と電力量の削減やCO₂削減の実績が認められました。特に電気災害については、47年間無災害を継続しています。

▶ 地域行事への参加・近隣の清掃活動

地域に密着した活動として、地域行事に積極的に参加しています。四日市事業所では毎年、四日市港まつりに、滋賀事業所、大湊事業所ではボランティア活動として、地域周辺の清掃活動を定期的に行っています。



瓜生川清掃(滋賀事業所)



海岸清掃(大湊事業所)



四日市港まつり(四日市事業所)



社会的責任を果たす

小中学生への出前授業、学生のインターンシップ、体験学習などの校外学習の受け入れなど次世代の育成支援を展開。品質保証体制を構築・運用し、お客様へ製品情報を提供しています。

社会・地域との関わり

▶ 地域・小中学校への出前授業

化学物質の基礎知識について分かりやすく説明し、「化学の面白さ」や「環境問題」に関心を持つ機会とすることを目的に、小中学生向けに出前授業を行っています。「身の回りの化学用品」として洗剤を使って、一人ひとりが実験をして界面活性剤の基本的作用を体験しながら「洗剤はどうして汚れを落とすのだろうか?」を理解し、化学物質と上手に付き合っていくことや水の大切さについて考えてもらいました。

2013年9月に京都市立納所小学校(4年生)、2014年2月に四日市市立港中学校(2年生)の2校で授業を行いました。また、2013年8月の「四日市子ども科学セミナー」(市教育委員会主催)の「科学っておもしろい! 環境とものづくりを学ぶ!」イベントに参加しました。業務を通して蓄積したノウハウや経験を活かし、身近な化学用品を楽しく、わかりやすく学ぶ授業を実践しています。



出前授業(京都市)



出前授業(四日市市)



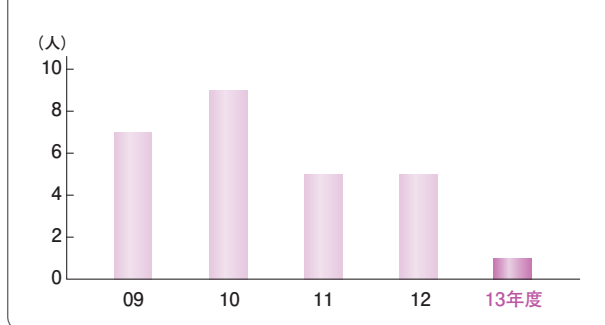
四日市子ども科学セミナー

▶ インターンシップ・体験学習

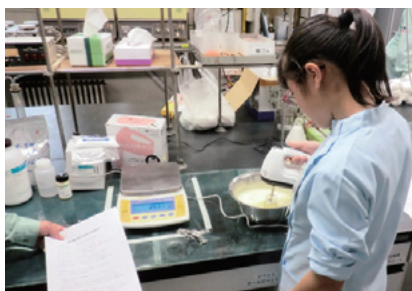
当社は、インターンシップを受け入れ、長年にわたり工業高等専門学校の学生に参加いただいています。夏休み中の1~2週間の日程で、研究所や事業所の品質管理課など、実際の職場で、当社の仕事を体験してもらいます。業務や事業の内容を理解していただくため、短い期間のなかで、「働くということ」を実感してもらえるようプログラムで実施しています。

インターンシップの受け入れは、学生の就業意識や実務能力の向上、職場に対する理解を促進するだけでなく、学校と連携することで情報交換を進める機会になると考えています。また、近隣の学校からの要請に応じて、当社の業務を体験する学習や企業や仕事についての職業インタビューにも協力しています。

高専生インターンシップ受け入れ状況



インターンシップ(滋賀事業所)



職場体験学習(大潟事業所)



職場体験学習(滋賀事業所)



職業インタビュー(大潟事業所)

お客様・取引先との関わり

品質保証体制

当社グループは、ISO9001の第三者認証を取得し、規格に基づく品質マネジメントシステムによる品質保証体制を構築して運用しています。品質保証のプロセス、品質保証体制の各部門における役割、責任と権限を明確にして品質管理の徹底、適正な製品情報の提供のほか、製品苦情に対して、誠実で迅速な対応に努め、安心してご使用いただける製品の確保に努めています。

製品企画から、設計・開発、生産、販売、顧客サービスに至る品質に関わる管理規程を定め、当社の経営理念である「顧客

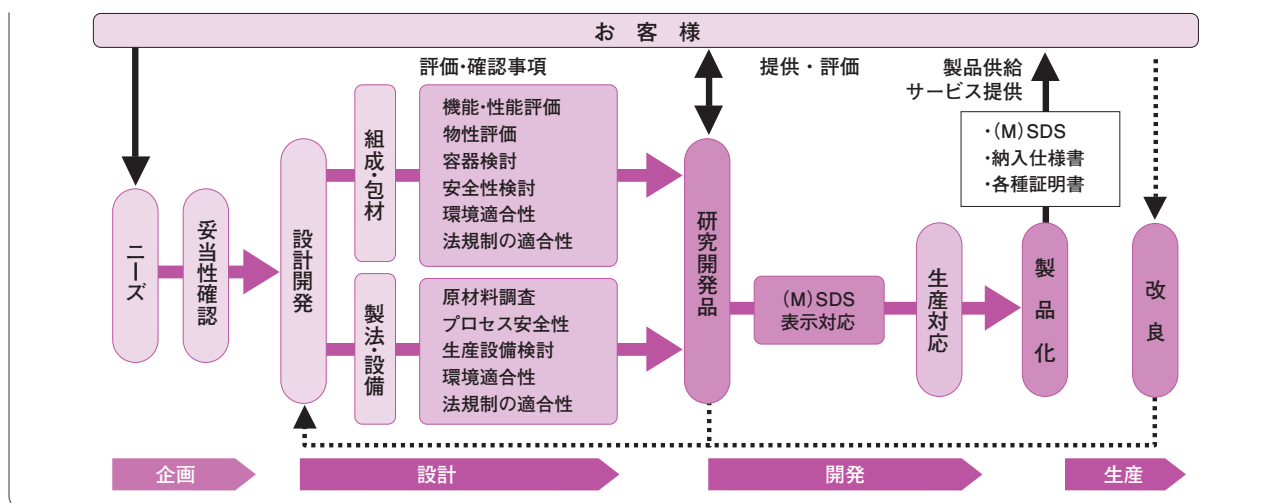
第一」の実現に向けて、以下の「品質方針」を定め、製品・サービスの品質向上のため、仕事の質を高める努力を続けています。

- (1)当社は顧客が満足する製品の設計と品質の確立を目指し、信頼性、安全性の高い製品を、顧客が要求する納期に、適切な価格で提供する。
- (2)当社は常により高い品質向上を目指し、品質マニュアルの有効性について継続的な改善を推進し、顧客満足の向上に努める。

▶ 新規製品開発のプロセス

製品開発では、お客様のニーズがさまざまな要素からなることを考慮して的確に捉えなければなりません。企画、設計、開発、生産の各工程で、法規制、環境、安全、生産、流通、工業所有権

を確実にするため、規程を定めてさまざまな観点から確認と審査を行っています。



▶ 製品情報の提供

当社製品についてご理解いただくため、各種の製品情報を提供しています。お客様のご要望やお問い合わせに対しては、誠意を持って迅速かつ適切に対応しています。既存製品や新製品のご紹介では、日常の商談などを通してお客様、取引先との緊密なコミュニケーションをはかるとともに、パンフレット、技術資料などで製品情報を発信しています。

また、安全データシート((M)SDS)による製品の化学物質としての情報提供のほか、環境負荷、各種法規制に関わるお問い合わせにお答えしています。「労働安全衛生法」「化学物質把握管理促進法」およびJIS改正に伴う(M)SDS、ラベル表示のGHS対応を順次実施しています。



パンフレット



みなさまの期待に応える経営を

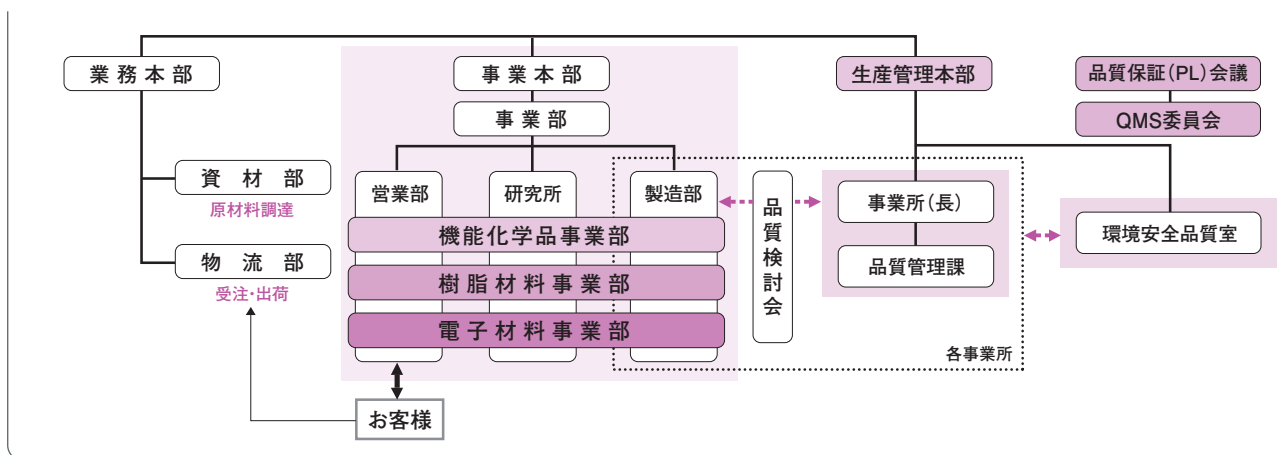
品質管理を実施し、苦情に対しては誠意を持って迅速に対応しています。
株主総会には有意義なコミュニケーションの場と位置づけています。

お客様・取引先との関わり

▶ 品質管理システム

当社の品質管理システムは、ISO9001を基本ツールとして運用しています。お客様からの品質に関する情報は営業担当を通じ、または直接各事業所の品質管理課が受け付け、一元管理し、迅速に対応する体制にしています。品質管理課と製造部は、品質検討会を毎月開催して品質の維持向上と不良の低減を

はかっています。QMS委員会では、品質管理システムのPDCAサイクルを回して改善・向上策の検討と推進を行い、品質保証(PL)会議は、QMS委員会からの上程事項の審議とマネジメントレビューの総括を実施して、品質管理システムの適切性、妥当性、有効性をレビューしています。



▶ 苦情・品質異常への対応

品質に関わる苦情は、品質確保の重要課題として位置づけ、「製品苦情処理規程」を制定しています。お客様より営業部門が情報を受けてから、各事業所の品質管理課および関係部署への伝達手順を定めて対応しています。品質に関わる苦情に対しては、誠意を持って迅速に処理すること、原因究明の徹底、再発防止、予防処置をはかることを方針として対応しています。

品質異常、苦情の情報は、ネットワークで共有化し、事業所ごとに苦情発生件数、品質異常件数の削減目標を設定し、進捗管理を実施しています。異常発生の対処として、ナゼナゼ分析で真因を究明、再発防止策を実施しています。また、各事業所においては、指差呼称の徹底、品質パトロールを実施して品質向上に取り組んでいます。

▶ 製造物責任(PL)方針

当社は、1994年に当社の製品の安全性を確保し、製品安全事故を未然に防止するため、製品の研究開発段階から製品製造、消費、廃棄に至るまで最大限の安全性を確保し、より

安全性・信頼性の高い製品の開発、生産、販売およびサービスを行う方針のもと「PL(製造物責任)予防管理規程」を制定し、PL事故予防体制を構築しています。

▶ 販売代理店とのパートナーシップ

お取引先との間に築いたニーズやシーズを探り、課題の解決を求める営業手法の強化をはかり、販売代理店の協力を得ながら販売活動を行っています。主要な販売代理店で構成する「全国一工会」代理店との分野別パイプを太くしてソリューション営業の強化を推進しています。

2013年度の全国一工会総会では、当社業績、中期経営計画、四日市地区再編の概要などについて説明を行いました。代理店とは信頼関係を基盤とした相互の繁栄のため、情報交換などコミュニケーション活動を行っています。



全国一工会総会(京都)

株主・投資家との関わり

▶ 株主総会

株主総会は、株主のみならずと経営者との大切なコミュニケーションの場と位置づけています。2013年の株主総会には90名の方々にご出席いただきました。総会後に坂本会長の「「こた



株主総会

える、化学”の株主に」と題した経営説明会、経営陣と株主様の懇談会が開催され、和やかな雰囲気の中、株主様と有意義な意見交換が行われました。



株主様と経営陣との懇談会

▶ 情報開示

当社では、投資家のみならず公正・適時・公平な開示を基本に、東京証券取引所が提供する適時開示情報伝達システム (TDnet) およびマスコミ (記者クラブなど) を通じて開示して

います。また、当社ホームページで決算短信、株主通信、有価証券報告書などのIR情報や株主総会招集通知、企業情報、プレスリリースなどを掲載しています。



当社ホームページ IR情報 <http://www.dks-web.jp/>



株主通信



プレスリリース



良き企業社会人を育てる

従業員一人ひとりが成長できるよう時代に即した雇用制度を整備し、充実した人材育成・教育プログラムを展開しています。

従業員との関わり

当社は、従業員の一人ひとりが財産であり、従業員の成長が会社の発展につながると考えています。良き企業人・企業社会人として常にやりがいをもって働けるよう、従業員の人権に配慮し、各種人事制度、人材育成・教育、職場環境づくりに取り組んでいます。

当社の人事理念

人は財産であり、人を大切にするという思想が、当社人事の根本理念である。従業員の成長が会社の発展につながるとの基本認識に立ち、従業員各自が主体的に、職場で活躍し、成長し、能力を発揮し、これにより自己実現を図ることが、延いては会社を発展させる原動力となり、会社を永遠のものにする源である。

人材育成方針

当社の経営理念及びそれに基づく経営方針を十分に理解し、その実現に貢献しうる人材を育成するため、従業員に次のような基本能力を求めています。

1. 深い専門知識、技能と広い視野
2. 積極的な行動力
3. 柔軟性のある思考力
4. 豊かな創造力

▶ 一般事業主行動計画

当社では、従業員の仕事と子育ての両立を支援するための「一般事業主行動計画」を策定し、社内・社外に公表しています。

一般事業主行動計画（概要）（2010年4月～2015年3月）

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 目標1 当社の子育て支援制度の周知及び啓発をおこなう | 目標4 子供・子育てに関する地域貢献活動の実施 |
| 目標2 所定外労働の削減のための措置の実施 | 目標5 インターンシップ等の就業体験機会の拡充 |
| 目標3 年次有給休暇の取得の促進のための措置の実施 | |

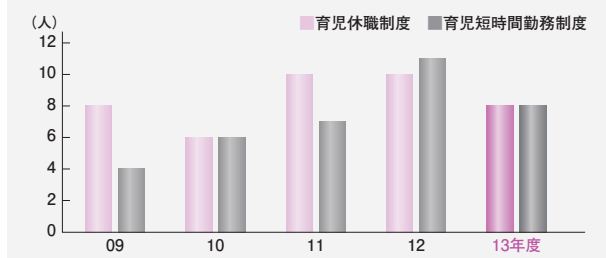
▶ 人事制度

■雇用制度

少子高齢化社会への対応やワーク・ライフ・バランスの推進として、従業員の育児・介護に配慮した各種人事制度を整備しています。育児短時間勤務の期間延長について労使合意し、2013年度より実施しております。

・育児休職制度 ・育児短時間勤務制度 ・介護休職制度

過去5年間の制度利用者数



■定年退職者再雇用制度

2006年度より、定年退職後の新たな再雇用制度を導入しました。「シニアチャレンジスタッフ」として、長年培ってきた技術や技能、経験を生かして活躍しています。

2013年度からは、法改正に沿った制度変更も実施しました。

■表彰制度

従業員のインセンティブ施策として業績表彰（年2回）、特許実績報奨制度の運用のほか、事業部長表彰、永年勤続表彰を実施しています。



2013年度上期業績表彰受賞者

■ハラスメント防止への取り組み

セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、モラル・ハラスメント防止への取り組みとして、階層別研修における教育や、相談窓口設置による対応を行っています。

▶ 人材育成・教育

従業員の成長が会社の発展につながるとの基本認識とする人事理念の実現に向けて人材育成を推進しています。

従業員の育成・教育プログラムは、仕事を通じた職場内教育(OJT)、業務を行う上で必要となる技術や能力の職場外教育(OFF-JT)、自己啓発支援の3つを柱として実施しています。

その他、社内講演会・説明会を開催するなど、自発的な能力開発のサポートに努めています。当社創業の地である七条千本の旧本社を研修施設として整備し、教育の場として活用しています。また、自己啓発による能力開発の促進をはかるため、「通信教育」「資格取得奨励制度」などを設定しています。

▶ 教育訓練体系

2011年度からマネジメント力の向上と人材育成をはかるため、従来の研修プログラムや内容を見直し、新しい教育訓練体系

を構築しました。特に職場外教育における階層別研修と部門別研修のプログラムを追加設定し、充実化をはかっています。

		職場外教育(OFF-JT)						自己啓発	
		部門別研修							
階層別研修		研究	営業	生産	管理	共通			
職場内教育(OJT)	役員	執行役員研修会							
	管理職	経営者育成研修	研究管理職育成研修	新任営業研修	営業力強化研修 営業業務の実践と応用研修	安全体感研修	会計研修(応用)	メンタルヘルス教育 国内留学 社外講習会派遣(学会セミナーなど) 人権研修 コンプライアンス研修	英会話初級クラス・上級クラス TOEIC 受験補助 資格取得奨励制度 通信教育制度・eラーニング
		管理職5年目研修							
		管理職3年目研修							
		アカウンティング研修							
		コーチング実践研修							
		新任課長研修							
	一般社員	上級専門職研修	技術者研修 安全衛生教育	実験計画法研修	スキルアップ研修	職長研修	会計研修(基礎)	B&S制度※2	
		専門職研修							
		3年目研修							
フォロー研修									
工場実習									
新入社員研修									

※1:LT(ロジカルシンキング)

※2:B&S(ブラザー&シスター)制度/若手先輩社員が新人とペアになり、1対1で仕事のやり方や進め方について研修を受け指導する制度



管理職3年目研修



通信教育制度



実験計画法研修

担当者の声



松吉 健一
人事課

新たな教育訓練体系に基づいた人材育成・教育を始動して3年目を迎えました。2013年度は、新入社員をサポートするブラザー&シスター制度で先輩社員側の教育の充実をはかったこと、また階層別教育研修では研修の前後に課題を設定し、必要なスキルを確実に会得できるよう受講者に努めていただきました。ともに、より大きな成長に結びつけられるものと考えます。

当社の将来を担う人材が各部門で育ち、また社外から「工業用薬剤のトップ企業」となると、従業員のレベルも高い。」とご評価を得ることが私の目標です。これに向け、2014年度からは、一層若手の教育に力を入れて取り組みます。



主体的な活動の場を広げて

研究成果を発表する大会や全員参加による改善活動など従業員主体の取り組みを推進。
また、健康診断やメンタルヘルスケアにより心身の健康を支えています。

従業員との関わり

▶ DKPM活動

DKPM(DKS Productive Maintenance)活動は、5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)を基本として、メーカーの根幹である生産性・業務効率の向上、品質管理の強化、安全への意識向上をはかる活動です。中期経営計画ステージIIの戦略を支えるベースであり、企業体質を強化し、管理・改善の基盤を構築することが活動の目的です。2012年4月に社長から活動宣言がなされ、コンサルタントの指導のもと、関係会社を含めた全従業員が参加して活動を展開しています。半期毎の実行計画の立案、維持管理診断、活動報告、トップ診断による審査が義務づけられています。優秀なサークルを表彰しています。関係会社の四日市合成では、YGPMとして1990年に導入し、20年以上にわたり活動しています。



DKPM活動トップ診断(大潟事業所)

▶ 社内講演会・説明会

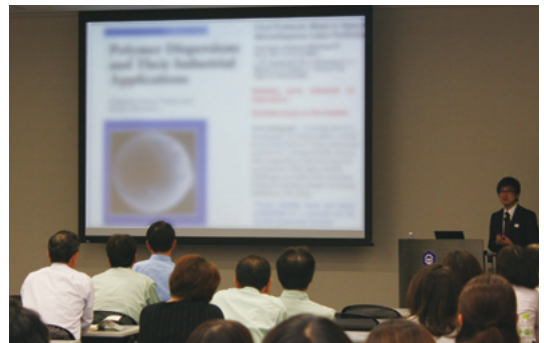
2013年度は、以下の講演会や説明会を開催しました。

■講演会(社外講師)

- ・微粒子安定化分散系の化学
- ・中国特許制度 —特徴を考慮した明細書作成の勘所—

■説明会

- ・研究部門に対するアセスメント「情報管理体制」と「知的財産権」
- ・契約書検討依頼データベースの周知
- ・契約書チェックポイントについて



社内講演会

▶ 研究発表大会

研究開発、生産技術開発などの研究成果の発表および全社的な技術交流の場として毎年2回、開催しています。社外構師による講演、口頭発表、ポスター発表の3部で構成され、2013年度は7月(第78回)と1月(第79回)に開催しました。

発表会後の懇親会では投票で優秀発表を選び、表彰しています。



第78回研究発表大会

▶ 社内報

経営トップからのメッセージのほか、経営方針や当社で働く従業員の姿などを伝える社内報「DKSCOM」を隔月に発行しています。

次の編集方針で発行しています。

- ①従業員一人ひとりに経営方針・情報を伝え、共有する。
- ②経営者と従業員のコミュニケーションを推進する。

毎年、全従業員を対象に挑戦カードを作成し、社内報に掲載しています。

1年間、自身の挑戦を示し、職場に掲示しています。



2014.2-3号



挑戦カード

▶ 家族サービスデー

初めての取り組みとして、四日市事業所において、家族との絆を深めるきっかけづくりや職場を知ってもらうことを目的としたイベントとして家族サービスデーを開催(2月)しました。親子10家族34名の方に参加していただきました。

当日は、工場見学、製品紹介、ハンドソープの手作りの体験学習、試食会が実施され、笑顔の多い一日となりました。今後は、他の事業所にも広げて開催していきたいと考えています。



家族サービスデー(四日市事業所)

▶ 健康管理・安全衛生

■健康診断

2013年度は定期健康診断の受診率啓発に取り組み、受診率は100%で目標を達成しました。また、がんの早期発見と健康増進を目的として、胃部レントゲン検査、腹部超音波検査、歯科健診、PSA検査を全社で行いました。

有所見者に対しては、確実な再検査受診と結果把握に努めるため、受診後の事後措置にも取り組み2010年度より再検査・受診勧奨を行っています。2012年度での再検査受診率68%に対し、2013年度は76%となりました。

健康診断の受診率は、2014年度も継続して100%を目標とします。有所見者に対しては、疾病への移行や重症化を防ぐことができるよう再検査・受診勧奨を行うとともに受診率の低下の原因を究明して受診率を高める取り組みを実施していきます。



健康診断(京都事業所)

■健康づくり

健康づくりの取り組みとして生活習慣病予防セミナーを行いました。関西労災病院の理学療法士の講師を迎え、血液の粘度を調べた後、生活習慣病予防につながる運動を実技を交えた講習を行いました。今後も健康づくりにつながる取り組みを実施することで健康の維持、増進を推進していきます。

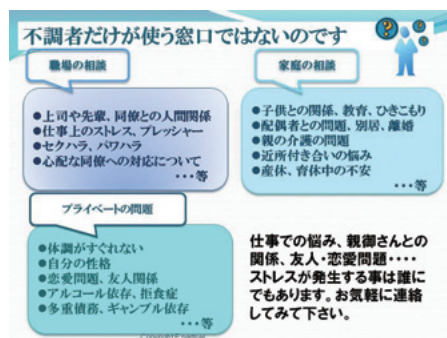


生活習慣予防セミナー(京都事業所)

■メンタルヘルスケア

2013年度のメンタルヘルスケアの取り組みとしては、社外コンサルタントを導入して相談窓口を設けました。職員とその家族が対象で、仕事以外の相談もできます。

また、四日市事業所、大湊事業所、滋賀事業所に巡回し、カウンセリングについての講習とカウンセリングの体験を行いました。事業所以外にもカウンセリングについての講習や社外コンサルタントについての説明の配信を実施しました。



社外コンサルタントの説明

四日市事業所

四日市事業所は、伊勢湾、鈴鹿山系、そして木曾三川に囲まれた水と緑が豊かな三重県北部の四日市市臨海部に位置しています。この恵まれた環境と豊かな地域を守るため、全ての事業活動において、環境への配慮や継続的な環境保全に努めています。近年、燃料転換による大気負荷低減、環境への配慮と省エネを重視した電気自動車を導入など行いました。また、最近増えているプラント事故に対して、保安防災対策の徹底、定期的に地震やプラント事故を想定した防災・防火訓練を実施しています。地域の防災訓練にも積極的に参加し地域共生型の事業所を目指して活動しています。今後も、コンプライアンスを重視し、環境負荷の低減をはかる取り組みを積極的に行い、継続的に発展し社会に貢献するように努めています。



RC推進メンバー

所在地 三重県四日市市千歳町7

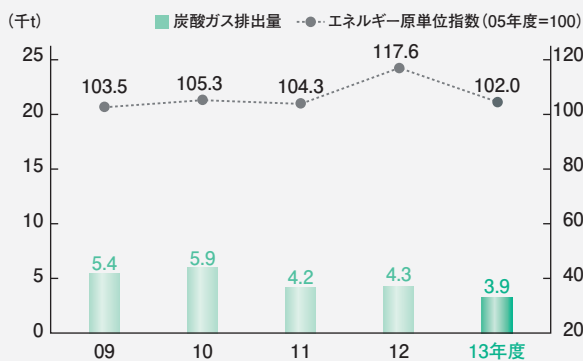
敷地 17,647㎡

主要製品 ポリエーテルポリオール、ウレタンプレポリマー
光硬化モノマー・オリゴマー、カチオン界面活性剤
アニオン界面活性剤、吸油・仕上剤

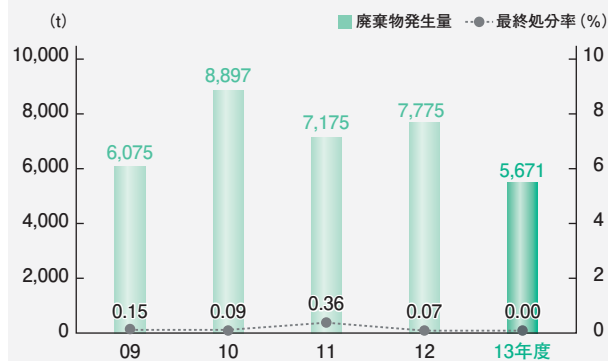
2013年度 環境負荷

原油換算エネルギー使用量 (kL)	1,945
炭酸ガス排出量 (t-CO ₂)	3,945
廃棄物発生量 (t)	5,671
最終処分量 (t)	0.1
PRTR排出量 (t)	34.72
排水量 (千m ³)	490.5
COD排出量 (t)	0.6

炭酸ガス排出量・エネルギー原単位の推移



廃棄物発生量・最終処分率の推移



▶ 環境・社会活動の取り組み

コンビナートに立地している当事業所は、環境保全や保安防災活動、地域行事への積極的な参加を通じて地域社会とのコミュニケーションをはかっています。環境保全としては、ライトダウン活動によるCO₂の削減や、三重県産業廃棄物処理推進協議会による三重県^{とうしじま}答志島での海岸漂着物の清掃作業に参加しました。

また、四日市市教育委員会の取り組みである、市の産業立地の特徴を生かした子どもたちの科学への知的好奇心・探求心を高める「四日市こども科学セミナー」や出前授業の実施、小学生新聞の寄贈など、子どもたちの育成にも注力しています。



答志島の清掃作業

大潟事業所

大潟事業所は、緑豊かな自然と日本海を望む恵まれた環境に融合し立地しています。この恵まれた環境の中で、カルボキシメチルセルロースナトリウム(CMC)、水系ウレタン樹脂、各種業務用洗剤、さらには樹脂添加剤と幅広い範囲の製品群の生産活動を行っています。「製品の開発から廃棄に至るまでの全ライフサイクルにわたり、人の安全と健康および環境の保全に配慮し、持続的発展と豊かな社会の実現に貢献する。」という基本理念に基づき、活動を推進しています。近年、廃棄物の削減を重視するとともにバイオマス燃料発電設備の立ち上げを行います。今後も環境保全に取り組み、省エネ活動を積極的にはかり、住み良い地球と心豊かな社会にするように取り組んでいきます。



RC推進メンバー



所在地 新潟県上越市大潟区犀潟230

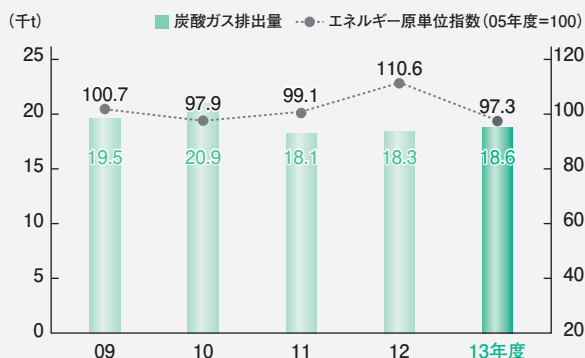
敷地 86,963㎡

主要製品 CMC、水系ウレタン樹脂、業務用洗剤
ポリビニルピロリドン

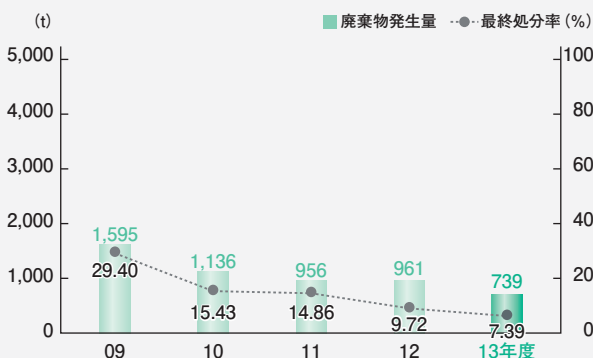
2013年度 環境負荷

原油換算エネルギー使用量	(kL)	8,365
炭酸ガス排出量	(t-CO ₂)	18,620
廃棄物発生量	(t)	739
最終処分量	(t)	54.6
PRTR排出量	(t)	0.34
排水量	(千m ³)	546.1
COD排出量	(t)	18.0

炭酸ガス排出量・エネルギー原単位の推移



廃棄物発生量・最終処分量の推移



▶ 環境・社会活動の取り組み

大潟事業所では、環境マネジメントシステムにて環境目標を定め継続的な環境への負荷削減などに取り組んでいます。産業廃棄物の3R(発生抑制、再利用、再生利用)の促進と有価物化の推進をはかります。廃水処理では、水質の維持向上をはかり、活性汚泥の資源化を実施しています。さらに嫌気処理で発生するメタンガスの再生可能エネルギー電気・熱利用を実施しています。

また、地域近隣のみなさまとの対話を大切により良い関係を築いています。地域行事・清掃、消防団や防災連絡協議会との防災訓練、住民との懇談会などへ参加することで、コミュニケーションをはかり、さらに社会に貢献できる企業活動への取り組みを行っています。



近隣住民との懇談会



滋賀事業所

滋賀事業所は、^{きぬがさ} 徹山を西にいただき、マザーレイク琵琶湖を望む緑豊かな地で、近江商人発祥地の一つとして知られる東近江に立地しています。全ての事業活動において環境問題に配慮し、継続的改善で環境保全に努めるとともに地域社会とのコミュニケーションを深め、共生を目指しています。

これまでは、コージェネレーションの導入や燃料転換による炭酸ガス排出量の低減、COD負荷低減のための排水処理設備の改善などに取り組んできました。

特に2013年度は、昨年8月に大幅な改良工事を実施した排水処理設備の安定稼働を実現し、CODの負荷低減を達成しました。これからもコンプライアンスの徹底をはかり、地域社会から一層信頼されるよう取り組んでいきます。



RC推進メンバー

所在地 滋賀県東近江市五個荘日吉町427

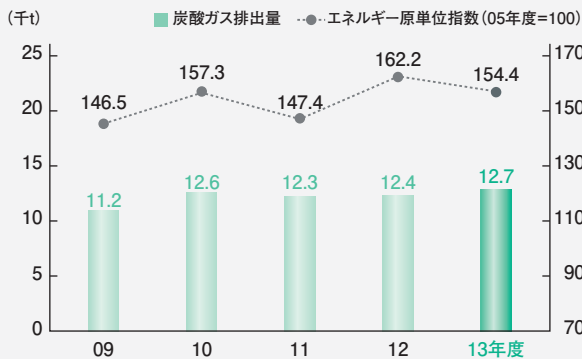
敷地 105,753㎡

主要製品 ショ糖脂肪酸エステル、食品添加物、金属表面処理剤
界面活性剤、水溶性ポリエステルポリオール
溶剤代替水系・非水系洗浄剤

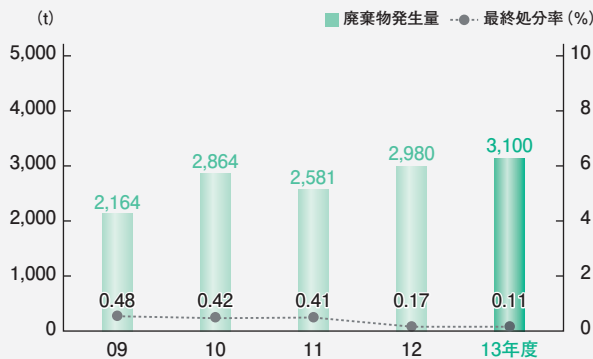
2013年度 環境負荷

原油換算エネルギー使用量 (kL)	6,580
炭酸ガス排出量 (t-CO ₂)	12,710
廃棄物発生量 (t)	3,100
最終処分量 (t)	3.3
PRTR排出量 (t)	0.41
排水量 (千m ³)	1,336.8
COD排出量 (t)	3.6

炭酸ガス排出量・エネルギー原単位の推移



廃棄物発生量・最終処分率の推移



▶ 環境・社会活動の取り組み

毎年7月に東近江市生活環境課の方と地域自治会の役員の方による「環境・安全パトロール」を実施しています。

まずは、事業所の概要や安全・環境に関する取り組みをスライドを用いて説明しています。化学工場からイメージされる危険性や騒音、臭気などのリスクとそれに対する対応を説明することで、地域の方からも日常感じられる意見が活発に出され話し合いにより相互に理解が深まりました。さらにプラントや排水処理場を中心に現場見学もしていただきました。こうした地域に根ざした取り組みを今後も続けてまいります。



地域自治会のみなさまとの「環境・安全パトロール」

四日市合成株式会社

四日市合成株式会社は、日本で最初のコンビナートに1959年設立されました。以降、数々の自社品を展開する中堅ファインケミカルメーカーとして各方面への期待に、こたえてきました。

2002年にRC宣言を行い、開発から廃棄にいたる全てのプロセスについて環境へ配慮した生産活動を行っています。企業理念、安全方針、環境方針、品質方針はもとより2012年には人材育成方針を策定し継続的な発展のための礎としてまいります。これからもコンプライアンスを重視し、地球環境との共生と安全の徹底をはかりつつ、公正で透明な事業活動を行うことにより、社会的責任を果たしてまいります。



RC推進メンバー



所在地 本社・四日市工場 三重県四日市市宮東町2丁目1
六呂見工場 三重県四日市市大字六呂見710

URL <http://www.yg-chem.co.jp/>

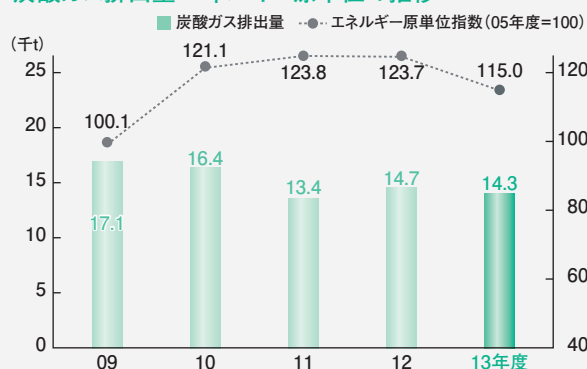
敷地 約30,000㎡(本社・四日市工場) 約26,000㎡(六呂見工場)

事業内容 エチレンオキソドその他石油化学工業品を原料とする各種化学製品の製造・加工および販売

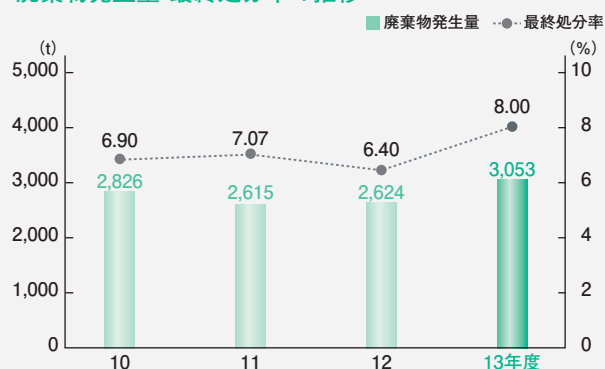
2013年度 環境負荷

原油換算エネルギー使用量 (kL)	6,339
炭酸ガス排出量 (t-CO ₂)	14,307
廃棄物発生量 (t)	3,053
最終処分量 (t)	244.3
PRTR排出量 (t)	0.69
排水量 (千m ³)	588.3
COD排出量 (t)	1.5

炭酸ガス排出量・エネルギー原単位の推移



廃棄物発生量・最終処分率の推移



▶ 環境・社会活動の取り組み

当社は、安全・品質・環境に関する各々の方針を掲げ、品質管理、環境管理はISOによるシステムを基とし、保安防災および労働安全は年間計画を策定して全社一丸となってRC活動に取り組んでいます。また、工場の5Sおよび業務改善などのトータルプロダクティブメンテナンス活動(YGPM活動)は1990年11月より、20年以上継続して実践しています。2013年11月には省エネ法に基づく経済産業省の現地調査があり第一種エネルギー管理指定工場としての取り組みに関し高い評価をいただきました。研修会や行事にも参加して地域のみなさまとコミュニケーションをはかっています。



防災訓練



京都エレクトクス株式会社

▶ 会社概要

当社は、第一工業製薬の分散技術とDOWAエレクトロニクスのメタル粉体技術を応用展開し、貴金属(銀・パラジウム・白金)や銅を主原料とする導電性ペーストの開発・製造・販売を目的に1986年7月に設立されました。各種ペーストの提供を通して、太陽電池・スマートフォン・LED・医療機器・OA機器などに使用される電子機器や電子部品の機能性と品質の向上に貢献しています。

▶ 環境・社会活動

環境や安全への関心が高まる中、電子材料の分野でも欧州REACHに代表される環境規制が各国で強化されています。当社では、環境分野に貢献する製品の開発に力を入れており、その中でも環境負荷物質である鉛を使用しない太陽電池用銀ペーストの実用化に世界に先駆けて成功し、日本のみならず世界で使用されています。自然エネルギーの需要が高まる中、環境に配慮した無鉛太陽電池のさらなる性能向上と普及のために開発を進めてまいります。



RC推進メンバー



所在地 京都市南区吉祥院大河原町1

URL <http://www.kyoto-elex.co.jp/>

事業内容 銀ペースト・銀パラジウムペースト・銀白金ペースト・銅ペースト・樹脂型銅ペースト・樹脂型銀ペースト・アルミニウムペースト・ガラスペーストの製造販売、各種導電材料の受託製造

第一セラモ株式会社

▶ 会社概要

当社は、1988年に第一工業製薬からセラミックス研究グループが独立し、(有)第一セラモとしてスタートしました。主に粉末射出成形(PIM)用コンパウンドの開発、製造、および販売をしており、現在は海外へも販売しています。射出成形評価を実施し、お客様との綿密な連携により、最適化したコンパウンドを供給しています。蓄積した知見をもとに技術革新を進め、お客様および産業界の発展に貢献できるよう日々活動中です。

▶ 環境・社会活動

滋賀事業所の敷地内に立地していることもあり、滋賀事業所と協働して環境保全活動に取り組んでいます。廃棄物の分別を徹底し、一部を有価物とすることで廃棄物の削減にも取り組んでいます。これからもコンプライアンスを重視し、さらなる環境改善に努めてまいります。



RC推進メンバー



所在地 滋賀県東近江市五個荘日吉町432

URL <http://www.dai-ichi-ceramo.co.jp/>

事業内容 粉末射出成形(PIM)用コンパウンドの製造販売

エレクセル株式会社

▶ 会社概要

当社は、リチウムポリマー電池や安全性の高いリチウムイオン二次電池の開発など時代の要請にこたえるべく、その技術力を研鑽してまいりました。現在では蓄積した電池技術や電池生産技術を基礎として、独自研究のみならず、リチウムイオン二次電池を中心とした素材・部材に関する評価受託・試作業務やプロトタイプ電池の製造を行っております。

▶ 環境・社会活動

事業の一環として、リン酸鉄を極材とした安価・安全な材料を用いたリチウム二次電池を開発することにより、再生可能エネルギーとしての蓄電や災害対策分野への応用として省エネ・省資源技術に寄与しております。当社は、関西文化学術研究都市の「けいはんなプラザ」にあり、ベンチャー企業との交流や、けいはんなEV協議会などに参加することで、社会への貢献を目指してまいります。



RC推進メンバー



所在地 京都府相楽郡精華町光台1丁目7
けいはんなプラザラボ棟13階

URL <http://www.elexcel.co.jp/>

事業内容 電池材料の受託評価、リチウムイオン電池の少量生産、研究開発

P.T. DAI-ICHI KIMIA RAYA

▶ 会社概要

当社は、1996年に繊維加工薬剤メーカーとして設立されました。直後の通貨危機やジャカルタ大暴動など、いくつかの困難を乗り越え、現在は繊維加工薬剤以外にも樹脂添加剤、紙用合成保水剤、食品添加物の製造・販売と、多様化するインドネシア市場のニーズに沿った事業を展開しています。



RC推進メンバー



▶ 環境・社会活動

当社の位置するKIIC工業団地の自治会を通じ、地域の方々へのボランティア活動を実施しています。近隣の乳幼児を対象に、毎月ベビーフードの提供や、イスラム教の祭には、山羊や牛を近隣5カ村に寄贈しています。

所在地 本社/工場
インドネシア ジャワ島 カラワン県

事業内容 繊維加工薬剤、樹脂添加剤、紙用薬剤、食品添加物の製造販売

晋一化工股份有限公司

▶ 会社概要

当社は、1976年に設立され、台湾市場を主に繊維用および化成品用の界面活性剤の製造・販売を開始しました。その後、プラスチック用滑剤やプリント基板用の難燃剤、耐熱硬化剤の製造および販売で電子産業分野に貢献しています。さらに最近では、高速伝送性能が求められる配線板用高周波材料や耐熱樹脂を提供しています。



RC推進メンバー



▶ 環境・社会活動

当社は、環境・品質マネジメントシステムの国際規格であるISO14001、ISO9001に基づき適切に行っています。また環境対策では製造プロセス改善による廃棄物の削減、再利用に取り組んでいます。

所在地 本社/台湾 台北市 工場/台湾 桃園県

事業内容 繊維および化成品用の界面活性剤、プラスチック用滑剤、難燃剤、電子材料用化学品の製造販売、土木建築用薬剤の輸入と製造販売、第一工業製薬製品の輸入および販売

双一力(天津)新能源有限公司

▶ 会社概要

当社は、2005年にリチウムイオン電池の製造・販売メーカーとして、中国・天津市の天津経済技術開発区に設立されました。天津経済技術開発区の高技術企業として選ばれ、社会への貢献度を認められました。



RC推進メンバー



▶ 環境・社会活動

当社は、空気圧縮システムを生産量に応じて効率的に使用し、省エネに努めています。また、社内および家庭で使用された電池を回収し、環境汚染を減少する意識の向上にもつなげています。

所在地 本社/工場 中国 天津市

事業内容 電動自転車、電動工具、UPS、EV、HEV用リチウムイオン電池の製造販売



第一工業製薬



表紙:米原市醒井／地藏川

鈴鹿山地の北端の山、霊仙山のふもとに位置する醒井地区は町筋に沿って清らかな湧水が流れています。清流にしか育たない梅花藻が群生し、初夏には白色の可憐な花を咲かせ大勢の観光客が訪れます。当社の滋賀事業所がある滋賀県には生態系豊かな琵琶湖があります。大小約460本の河川が流れ込み、近畿約1,450万人の重要な水道資源となっています。

本報告書に関するお問い合わせ先

第一工業製薬株式会社

生産管理本部 環境安全品質室

〒601-8391 京都市南区吉祥院大河原町5

TEL.075-326-7553 FAX.075-326-7552

www.dks-web.co.jp

2014年6月発行

次回発行予定2015年6月



この印刷物は環境に考慮し、ベジタブルオイルインキ・水なしオフセット印刷・針金を使用しない製本で制作しています。